



# 3

## SURFNAVIのサービス

この章では、SURFNAVIが提供するサービスとWebベースの運用管理ツールである「iManagement Console」を利用した設定/管理について説明します。SURFNAVIを導入することにより、ユーザーの管理やインターネットサービスに必要となるWebサーバ、メールサーバ、プロキシサーバなどを容易に管理することができます。

iManagement Console (→67ページ) .....	SURFNAVIの状態を確認したり、各種設定をするウィンドウです。クライアントマシンのWebブラウザからSURFNAVIにアクセスして表示できるまでの手順について説明しています。
スタート(→70ページ) .....	SURFNAVIのリセットやシャットダウンの方法、セキュリティモード、管理者パスワードの変更について説明します。
システム(→72ページ) .....	SURFNAVIシステムの状態監視や、パッケージやログなどの管理方法について説明します。
ネットワーク(→84ページ) .....	ネットワークの基本設定、DNS、DHCP、SNMPなどの設定方法について説明します。
ユーザ管理(→92ページ) .....	SURFNAVIを利用できるユーザーの管理について説明します。
メールサーバ(→95ページ) .....	SURFNAVIをメールサーバとして利用するときのセットアップについて説明します。
コンテンツ(→99ページ) .....	コンテンツマネージャを利用したWebサーバ/AnonymousFTPサーバのドキュメントルートの設定方法およびコンテンツを保存するコンテンツディレクトリの管理方法について説明します。
ウェブサーバ(→115ページ) .....	SURFNAVIをWebサーバとして利用するときのセットアップについて説明します。
ファイルサーバ(→122ページ) .....	SURFNAVIと他のコンピュータとの間でファイルを共有・転送するためのSamba、FTPの設定方法について説明します。

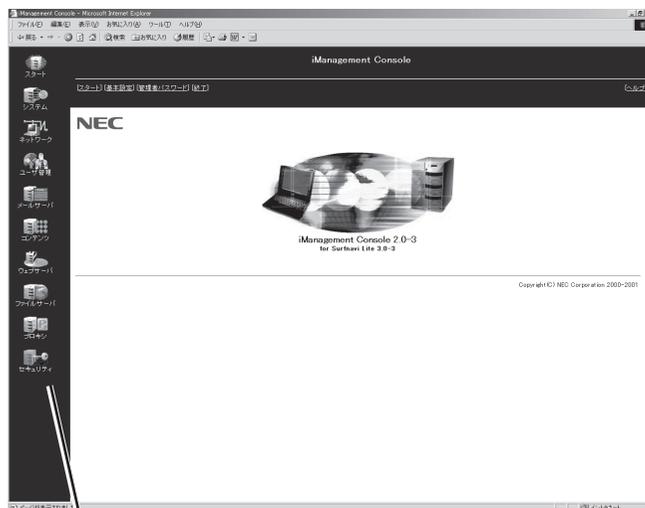
プロキシ(→126ページ) .....	インターネット閲覧を効率的にするためのプロキシの設定について説明します。
セキュリティ(→129ページ) .....	セキュリティを向上させるためのセキュリティの設定について説明します。
バックアップ(→132ページ) .....	SURFNAVIに保存されているデータのバックアップのとり方や、リストアの方法について説明します。
リモート保守(→146ページ) .....	インターネットを介してSURFNAVIをリモートで保守するときのセットアップについて説明します。

# iManagement Console

ネットワーク上のクライアントマシンからWebブラウザを介して表示されるのが「iManagement Console」です。iManagement ConsoleからSURFNAVIのさまざまな設定の変更や状態の確認ができます。

このiManagement Consoleには、「管理者用」と「一般ユーザー用」があります。この章では、「管理者用」のiManagement Consoleで利用できるさまざまなサービスの設定や確認、SURFNAVIの操作方法を中心に説明します。

## iManagement Console管理者用トップページ



ブラウザ上から設定したい項目(アイコン)をクリックすると、それぞれの設定画面に移動することができる。

### 【iManagement Consoleの画面構成】

#### ■ 管理者用トップページ

- スタート
- システム
- ネットワーク
- ユーザ管理
- メールサーバ
- コンテンツ
- ウェブサーバ
- ファイルサーバ
- プロキシ
- セキュリティ

# iManagement Consoleのアクセスモード

iManagement Consoleは、日常的な運用管理のセキュリティを確保するため、2つのアクセスモードをサポートしています。

## ● 通常モード(50080)

パスワード認証による利用者のチェックをします。ただし、パスワードや設定情報は暗号化されません。

## ● SSLモード(50443)

パスワード認証に加えて、パスワードや設定情報をSSL (Secure Socket Layer) で暗号化して送受信します。自己署名証明書を用いていますので、ブラウザでアクセスする際に警告ダイアログボックスが表示されますが、[はい]などを選択してください。

初期設定では「通常モード」に設定されています。設定を変更する場合は、iManagement Console画面の[スタート]アイコンをクリックして表示される画面から、「基本設定」をクリックして設定を行ってください。



アクセスモードを変更して再起動した場合、[戻る]では前の画面に戻れません。ブラウザに変更後のURLを入力してアクセスを行ってください。

# iManagement Consoleへのアクセス方法(管理者の場合)

SURFNAVIの管理者は、iManagement Consoleを利用することにより、クライアント側のブラウザからネットワークを介してSURFNAVIのあらゆるサービスを簡単な操作で一元的に管理することができます。以下に各アクセスモードにおけるアクセス手順を示します。



- iManagement Consoleへのアクセスには、プロキシを経由させないでください。
- インターネット側からiManagement Consoleにアクセスする場合は、SSLモードに設定してください。
- SSLモードでは、HTTPSプロトコル、ポート番号50443を使用します。
- 管理者は、同時に2人以上ログインすることはできません。
- ログイン後、何もしない状態が5分以上続くと、自動的にセッションが閉じられます。「セッションが無効です」と表示された場合は、もう一度ログインし直してください。
- iManagement Consoleへアクセスする場合は、ブラウザの設定でCookieとJavaScript(アクティブスクリプト)を有効にしてください。

## 通常モードの場合

1. クライアント側のブラウザを起動する。
2. URL入力欄に「http://<SURFNAVIのIPアドレス、または名前>:50080/」と入力する。
3. ユーザー名に「admin」、パスワードにはセットアップ時に指定した管理者パスワードを入力し、[ログイン]をクリックする。

## SSLモードの場合

1. クライアント側のブラウザを起動する。
2. URL入力欄に「https://<SURFNAVIのIPアドレス、または名前>:50443/」と入力する。
3. 警告ダイアログボックスが表示されたら、[はい]などをクリックして進む。
4. ユーザー名に「admin」、パスワードにはセットアップ時に指定した管理者パスワードを入力し、[ログイン]をクリックする。

## iManagement Consoleへのアクセス方法(一般ユーザーの場合)

SURFNAVIに登録された一般ユーザーは、iManagement Consoleを利用して以下の設定を行うことができます。

- 自分のパスワード
- メール転送先(複数可)
- メールのダウンロード(ダイナミックIPモデルの接続のみ)

また、一般ユーザーによるiManagement Consoleへのアクセスにおいても、通常モード/SSLモードの2つのアクセスモードをサポートしています。以下に各アクセスモードにおけるアクセス手順を示します。

### 通常モードの場合

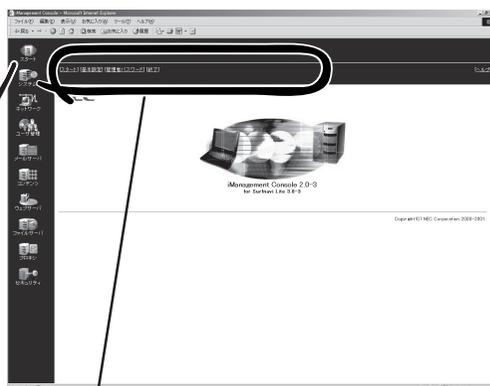
1. クライアント側のブラウザを起動する。
2. URL入力欄に「http://<SURFNAVIのIPアドレス、または名前>:50080/」と入力する。
3. 各一般ユーザーのユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックする。

### SSLモードの場合

1. クライアント側のブラウザを起動する。
2. URL入力欄に「https://<SURFNAVIのIPアドレス、または名前>:50443/」と入力する。
3. 警告ダイアログボックスが表示されたら、[はい]などをクリックして進む。
4. 各一般ユーザーのユーザー名とパスワードを入力し、[ログイン]をクリックする。

# スタート

iManagement Console画面左の[スタート]アイコンをクリックすると「スタート」画面が表示されます。



項目をクリックするとそれぞれの選択画面が表示される

## iManagement Consoleの基本設定

「基本設定」をクリックすると、「iManagement Consoleの基本設定」画面になります。

### アクセスモード

iManagement Consoleのアクセスモードを選択します。詳細は「iManagement Consoleのアクセスモード」(68ページ)を参照してください。

### メッセージ

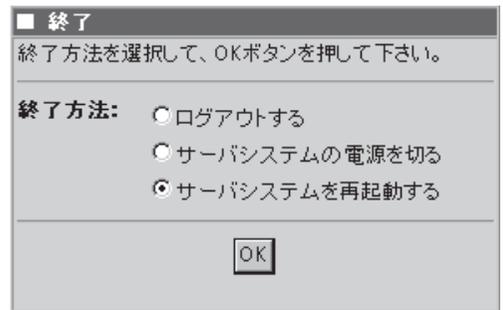
iManagement Consoleの表示言語を選択します。

## 管理者パスワードの変更

「管理者パスワード」をクリックすると、「管理者パスワードの変更」画面になります。管理者(admin)のパスワードを変更します。省略すると、パスワードは変更されません。(空のパスワードを設定することはできません。)

# iManagement Consoleの終了

「終了」をクリックすると、「iManagement Consoleの終了」画面になります。



- ログアウトする

「ログアウトする」を選択して[OK]をクリックすると、セッションを終了し、ログイン画面に戻ります。

- システムの電源を切る

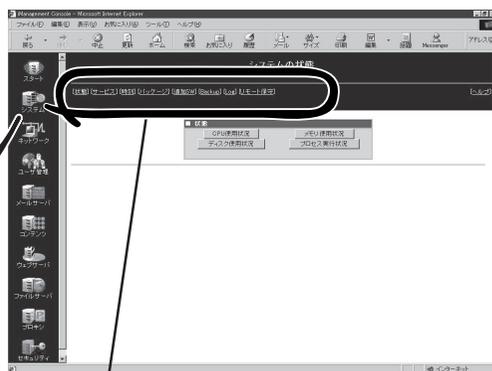
「システムの電源を切る」を選択して[OK]をクリックすると、終了処理をした後、システムの電源がOFFになります。前面パネルのPOWERランプが消灯したことを確認してください。

- システムを再起動する

「システムを再起動する」を選択して[OK]をクリックすると、終了処理を行った後、システムがいったん停止し、再起動します。

# システム

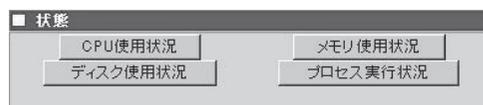
iManagement Consoleの[システム]アイコンからは、システムの状態の監視・設定、パッケージ管理、バックアップ管理、ログ管理、サービス選択、およびモデル変更の設定を行うことができます。



項目をクリックするとそれぞれの選択画面が表示される

## システムの状態

[状態]アイコンをクリックすると、「システムの状態」画面になります。



この画面から現在のシステムの状態を確認することができます。

### ● CPU使用状況

CPUの使用状況をグラフと数値で表示します。[更新]をクリックすると最新情報に更新されます。

### ● メモリ使用状況

メモリの使用状況をグラフと数値で表示します。[更新]をクリックすると最新情報に更新されます。

### ● ディスク使用状況

ディスクの使用状況を各ファイルシステムごとにグラフと数値で表示します。[更新]をクリックすると最新情報に更新されます。空き容量、使用率に注意してください。空き容量が足りなくなるとシステムが正常に動作しなくなるおそれがあります。

### ● プロセス実行状況

SURFNAVIで現在実行中のプロセスの一覧を表示します。プロセス実行状況の表の最上行の項目名をクリックすると、各項目で表示をソートすることができます。

```
USER PID PPID CLS STIME TTY TIME COMD
```

# サービスの選択

「サービスの選択」画面では「インターネットモデル」、「イントラネットモデル」、「ダイナミックIPモデル」、「DMZネットモデル」の各モデルに応じてSURFNAVIが提供するWebやMailなどのサービスの動作形態を選択し、設定することができます。

Mailサービス	Mailサービス停止	設定	状態
Webサービス	Webサービスなし	設定	状態
プロキシ	使用する	設定	状態
ファイアウォール機能	使用する	設定	状態
UPS	接続しない	設定	状態
NTP	使用しない	設定	状態
Sambaサービス	Sambaサービス停止	設定	状態
外向けFTP	使用しない	設定	状態

初期状態では、SURFNAVIの提供する各種サービスは基本的に「利用しない」設定になっています。WebやMailのサービスを利用する場合は、「サービス選択」画面から、お客様の利用形態とモデルに合わせて各種サービスの動作形態を選択し、設定する必要があります。

各サービスの動作形態についての説明は次項以降に説明します。

## インターネットモデル

インターネットモデルにおけるサービスの種類と形態について以下に説明します。

### サービスの種類と形態

#### ● Mailサービス

メールの送受信に関するサービスです。sendmailとpopデーモンの動作、およびメール関連のポートに関するファイアウォールの動作を規定します。以下の形態があります。

##### － Mailサービス起動

SURFNAVIをメールサーバとして運用するために必要なサービスを起動します。メールサーバの設定については、「メールサーバ」(95ページ)を参照してください。

##### － Mailサービス停止

メールサーバ機能を停止します。

## ● Webサービス

Webサーバおよびリバースプロキシの動作と、Web関連のポートに関するファイアウォールの動作を規定します。以下の形態があります。

- － Webサービスなし  
Webサーバ機能を停止します。
- － 内部向けにWebサーバ起動  
内部(イントラネット)のみにWebサービスを提供します。
- － Webサーバ起動  
Webサーバをインターネットにも公開します。
- － リバースプロキシサーバ起動  
リバースプロキシサーバを起動します。別のWebサーバが必要です。

## ● ファイアウォール機能

SURFNAVIが提供するファイアウォール機能の動作を規定します。以下の形態があります。

- － 使用しない  
ファイアウォール機能を使用しません。ファイアウォールを別に設置しない場合は、セキュリティ上問題となりますので、選択しないでください。
- － 使用する  
ファイアウォール機能を使用します。ファイアウォールを別に設置しない場合は、必ずこちらを選択してください。

## ● プロキシ

プロキシの動作とプロキシのポートに関するファイアウォールの動作を規定します。以下の形態があります。

- － 使用する  
プロキシを使用します。プロキシの解説/設定については「プロキシ」(126ページ)を参照してください。
- － 使用しない  
プロキシを使用しません。別のプロキシサーバを使用する場合には、「プロキシ」から「別プロキシサーバの設定」を行ってください。

## ● NTP

NTPサーバの動作を規定します(NTPサーバの設定については、「時刻の設定」(82ページ)を参照してください)。以下の形態があります。

- 使用しない  
NTPサーバ機能を停止します。
- 上位NTPサーバ  
上位のNTPサーバを使用するためのサービスを起動します。
- ローカルNTPサーバ  
ローカル内のNTPサーバとして運用するためのサービスを起動します。

## ● UPS

無停電電源装置(UPS)を接続する場合は、ここで使用するUPSを選択します。詳細は「無停電電源装置(UPS)のセットアップ」(53ページ)を参照してください。

## ● Sambaサービス

Windowsファイル共有サービスを提供するsmbd, nmbdデーモンの動作を規定します。以下の形態があります。

- Sambaサービス起動  
Sambaサービスを提供します。
- Sambaサービス停止  
Sambaサービスを停止します。

## ● 外向けFTP

インターネットモデル、DMZネットモデルにおいて、外向けAnonymous FTPサーバ機能の使用を規定します。以下の形態があります。

- 使用する  
外向けAnonymous FTPサーバ機能を使用します。
- 使用しない  
外向けAnonymous FTPサーバ機能を使用しません。

---

## サービスの詳細

[状態]をクリックすると、各サービスごとにサービス提供に必要なデーモンの起動状態を確認することができます。



各デーモンの起動状態は、[起動]、[停止]、および[規定値]によって変更することが可能ですが、不用意にこれらのボタンを用いてデーモンの動作状態を変更しないでください。SURFNAVI が不安定な状態になるおそれがあります。

# イントラネットモデル

イントラモデルにおけるサービスの種類と形態について以下に説明します。

---

## サービスの種類と形態

### ● Mailサービス

メールの送受信に関するサービスです。sendmailおよびpopデーモンの動作と、メール関連のポートに関するファイアウォールの動作を規定します。以下の形態があります。

#### － Mailサービス起動

SURFNAVIをメールサーバとして運用するために必要なサービスを起動します。メールサーバの設定については、「メールサーバ」(95ページ)を参照してください。

#### － Mailサービス停止

メールサーバ機能を停止します。

### ● Webサービス

Webサーバの動作を規定します。以下の形態があります。

#### － Webサービスなし

Webサーバ機能を停止します。

#### － Webサーバ起動

Webサーバをインターネットにも公開します。

### ● プロキシ

プロキシの動作とプロキシのポートに関するファイアウォールの動作を規定します。以下の形態があります。

#### － 使用する

プロキシを使用します。プロキシの解説/設定については「プロキシ」(126ページ)を参照してください。

#### － 使用しない

プロキシを使用しません。別のプロキシサーバを使用する場合には、「プロキシ」から「別プロキシサーバの設定」を行ってください。

### ● UPS

無停電電源装置(UPS)を接続する場合は、ここで使用するUPSを選択します。詳細は「無停電電源装置(UPS)のセットアップ」(53ページ)を参照してください。

## ● NTP

NTPサーバの動作を規定します(NTPサーバの設定については、「時刻の設定」(82ページ)を参照してください)。以下の形態があります。

- 使用しない  
NTPサーバ機能を停止します。
- 上位NTPサーバ  
上位のNTPサーバを使用するためのサービスを起動します。
- ローカルNTPサーバ  
ローカル内のNTPサーバとして運用するためのサービスを起動します。

## ● Sambaサービス

Windowsファイル共有サービスを提供するsmbd, nmbdデーモンの動作を規定します。以下の形態があります。

- Sambaサービス起動  
Sambaサービスを提供します。
- Sambaサービス停止  
Sambaサービスを停止します。

---

## サービスの詳細

[状態]をクリックすると、各サービスごとに、サービス提供に必要なデーモンの起動状態を確認することができます。



各デーモンの起動状態は、[起動]、[停止]、および[規定値]によって変更することが可能ですが、不用意にこれらのボタンを用いてデーモンの動作状態を変更しないでください。SURFNAVI が不安定な状態になるおそれがあります。

# ダイナミックIPモデル

ダイナミックIPモデルにおけるサービスの種類と形態について以下に説明します。

---

## サービスの種類と形態

### ● Mailサービス

メールの送受信に関するサービスです。sendmailおよびpopデーモンとfetchmailの動作と、メール関連のポートに関するファイアウォールの動作を規定します。以下の形態があります。

#### ー Mailサービス起動

SURFNAVIをメールサーバとして運用するために必要なサービスを起動します。メールサーバの設定については、「メールサーバ」(95ページ)を参照してください。

#### ー Mailサービス停止

メールサーバ機能を停止します。

#### ー ISP Mailホスティング

ISPのMailホスティングサービスを利用します。サーバシステムのMailサービスは停止します。

### ● Webサービス

Webサーバの動作と、Web関連のポートに関するファイアウォールの動作を規定します。以下の形態があります。

#### ー Webサービスなし

Webサーバ機能を停止します。

#### ー 内部向けにWebサーバ起動

内部(イントラネット)のみにWebサービスを提供します。

### ● プロキシ

プロキシの動作とプロキシのポートに関するファイアウォールの動作を規定します。以下の形態があります。

#### ー 使用する

プロキシを使用します。プロキシの解説/設定については「プロキシ」(126ページ)を参照してください。

#### ー 使用しない

プロキシを使用しません。別のプロキシサーバを使用する場合には、「プロキシ」から「別プロキシサーバの設定」を行ってください。

- UPS

無停電電源装置(UPS)を接続する場合は、ここで使用するUPSを選択します。詳細は「無停電電源装置(UPS)のセットアップ」(53ページ)を参照してください。

- NTP

NTPサーバの動作を規定します(NTPサーバの設定については、「時刻の設定」(82ページ)を参照してください)。以下の形態があります。

- ー 使用しない  
NTPサーバ機能を停止します。
- ー 上位NTPサーバ  
上位のNTPサーバを使用するためのサービスを起動します。
- ー ローカルNTPサーバ  
ローカル内のNTPサーバとして運用するためのサービスを起動します。

- Sambaサービス

Windowsファイル共有サービスを提供するsmbd, nmbdデーモンの動作を規定します。以下の形態があります。

- ー Sambaサービス起動  
Sambaサービスを提供します。
- ー Sambaサービス停止  
Sambaサービスを停止します。

---

## サービスの詳細

[状態]をクリックすると、各サービスごとに、サービス提供に必要なデーモンの起動状態を確認することができます。



各デーモンの起動状態は、[起動]、[停止]、および[規定値]によって変更することが可能ですが、不用意にこれらのボタンを用いてデーモンの動作状態を変更しないでください。SURFNAVI が不安定な状態になるおそれがあります。

# DMZネットモデル

DMZネットモデルにおけるサービスの種類と形態について以下に説明します。

---

## サービスの種類と形態

### ● Mailサービス

メールの送受信に関するサービスです。sendmailとpopデーモンの動作、およびメール関連のポートに関するファイアウォールの動作を規定します。以下の形態があります。

－ Mailサービス起動

SURFNAVIをメールサーバとして運用するために必要なサービスを起動します。メールサーバの設定については、「メールサーバ」(95ページ)を参照してください。

－ Mailサービス停止

メールサーバ機能を停止します。

### ● Webサービス

Webサーバおよびリバースプロキシの動作と、Web関連のポートに関するファイアウォールの動作を規定します。以下の形態があります。

－ Webサービスなし

Webサーバ機能を停止します。

－ 内部向けにWebサーバ起動

内部(イントラネット)のみにWebサービスを提供します。

－ Webサーバ起動

Webサーバをインターネットにも公開します。

－ リバースプロキシサーバ起動

リバースプロキシサーバを起動します。別のWebサーバが必要です。

### ● プロキシ

プロキシの動作とプロキシのポートに関するファイアウォールの動作を規定します。以下の形態があります。

－ 使用する

プロキシを使用します。プロキシの解説/設定については「プロキシ」(126ページ)を参照してください。

－ 使用しない

プロキシを使用しません。別のプロキシサーバを使用する場合には、「プロキシ」から「別プロキシサーバの設定」を行ってください。

- UPS

無停電電源装置(UPS)を接続する場合は、ここで使用するUPSを選択します。詳細は「無停電電源装置(UPS)のセットアップ」(53ページ)を参照してください。

- NTP

NTPサーバの動作を規定します(NTPサーバの設定については、「時刻の設定」(82ページ)を参照してください)。以下の形態があります。

- ー 使用しない  
NTPサーバ機能を停止します。
- ー 上位NTPサーバ  
上位のNTPサーバを使用するためのサービスを起動します。
- ー ローカルNTPサーバ  
ローカル内のNTPサーバとして運用するためのサービスを起動します。

- 外向けFTP

インターネットモデル、DMZネットモデルにおいて、外向けAnonymous FTPサーバ機能の使用を規定します。以下の形態があります。

- ー 使用する  
外向けAnonymous FTPサーバ機能を使用します。
- ー 使用しない  
外向けAnonymous FTPサーバ機能を使用しません。

---

## サービスの詳細

[状態]をクリックすると、各サービスごとにサービス提供に必要なデーモンの起動状態を確認することができます。



各デーモンの起動状態は、[起動]、[停止]、および[規定値]によって変更することが可能ですが、不用意にこれらのボタンを用いてデーモンの動作状態を変更しないでください。SURFNAVI が不安定な状態になるおそれがあります。

## 時刻の設定

[時刻]をクリックすると、「時刻・NTPの設定」画面になります(時刻・NTPの設定画面は[サービス]のNTPの選択にあわせて変化します)。

この画面からSURFNAVI自体の時刻を合わせたり、NTP(Network Time Protocol)を使用し、LAN内の時刻を管理する設定をしたりすることができます。

### ● 時刻設定

SURFNAVI自体の時刻を設定します。このページを開いた時点の時刻が表示されており、「現在の時刻に更新」をクリックとページのリロードにより、現在時刻が再表示されます。

[設定]をクリックすると、表示時刻がシステムに設定されます。

### ● NTPの設定

NTPサーバを設定します。設定をはじめる前に「サービスの選択」(73ページ)により、どちらのタイプでNTPを作動させるかを選んでください。

#### ー 使用しない

NTPサーバとしての動作をしません。

#### ー 上位NTPサーバ

上位のNTPサーバを用いて時刻を同期し、かつLAN内基準時計サーバになります。[上位NTPサーバ]を選択後、[時刻]に移動し、問い合わせ先となる上位NTPサーバのアドレスを指定してください。

#### ー ローカルNTPサーバ

LAN内基準時計サーバとなり、外部とは孤立した独自サーバになります。外部のNTPサーバとの同期ではないので不正確ですが、LAN内で時刻同期できればよい場合、また何らかの理由で外部のNTPサーバと同期が取れない場合に使用します。定期的に手動で(時報サービスなどにより)時刻を合わせてください。



ファイアウォール機能を使用している場合は、インターネット上の上位NTPサーバを設定してもNTPサーバとして時刻の同期はできません。

## パッケージの管理

SURFNAVIにインストールされているパッケージの確認・削除や、新しいパッケージのインストールを行います。CD-ROM、フロッピーディスクにあるパッケージおよびネットワークから取得したパッケージをインストールすることができます。サーバの動作が不安定になる可能性があるため、特に指示のあったパッケージ以外のインストールはしないでください。詳細は、画面上の[ヘルプ]をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。

## 追加ソフトウェア

SURFNAVIが対応するソフトウェアのインストールの準備をします。対応するソフトウェアの情報やインストールの準備に必要なRPMなどは、SURFNAVIのホームページ([www.ace.comp.nec.co.jp/linux/snl/](http://www.ace.comp.nec.co.jp/linux/snl/))をご覧ください。

インストールの準備などの詳細はオンラインヘルプを参照してください。

インストールインタフェースの状態		
ソフトウェア	状態	実行
CrazyWWWBoard2000	未インストール	インストール
Office2000	未インストール	インストール
サイボウズOffice4	未インストール	インストール

## バックアップ管理

システムのバックアップ管理を行います。詳細については、「バックアップ」(132ページ)を参照してください。

## ログ管理

SURFNAVIシステムのログファイルの表示、削除およびローテーションの設定を行います。ログファイルの表示、削除はドロップボックスから対象ファイルを選択し、[表示]、[削除]をクリックことにより実行します。ログファイルのローテートおよび世代の設定は、各種別ごとに[設定変更]をクリックし、設定画面に移ります。

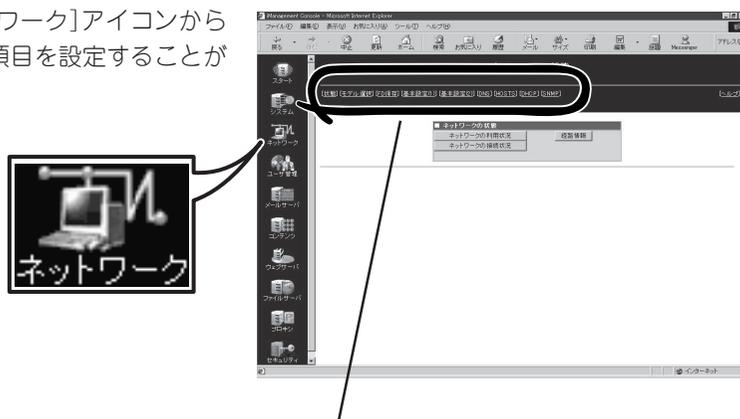
ローテートおよび世代の設定の詳細はオンラインヘルプを参照してください。

## リモート保守

インターネットを経由して保守サービス会社がSURFNAVIの保守をするための設定をします。146ページを参照してください。

# ネットワーク

iManagement Consoleの[ネットワーク]アイコンからは、ネットワークに関する以下の項目を設定することができます。



項目をクリックするとそれぞれの選択画面が表示される

## ネットワークの状態

[状態]をクリックすると、「ネットワークの状態」画面になります。

この画面から以下のネットワーク状態を確認できます。

- ネットワークの利用状況

SURFNAVIのネットワーク利用状況を各ネットワークインタフェースごとに表示します。[更新]をクリックすると最新の情報に更新されます。

- ネットワークの接続状況

SURFNAVIの各ポートごとの接続状況を表示します。[更新]をクリックすると最新の情報に更新されます。

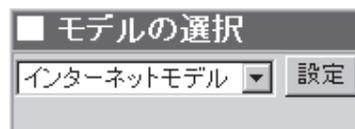
- 経路情報

「相手ホスト：」にホスト名を入力して[表示]をクリックすると、そのホストまでの経路情報を表示します。



## モデルの選択

SURFNAVIのネットワーク接続形態を変更します。詳細は「初めてのセットアップ」(24ページ)を参照してください。



# FD保存

初期導入フロッピーで設定した項目を初期導入フロッピーディスクにバックアップします。ネットワーク設定を変更し、バックアップした以前のネットワーク設定をリストアしたい場合には、バックアップしたフロッピーディスクを挿入して[リストア]をクリックした後に、システムを再起動をしてください。

## ネットワークの基本設定(ローカル側)

「基本設定(1)」をクリックすると「ネットワークの基本設定(intra)」画面および「ネットワークのルーティング設定(intra)」の画面になります。「ネットワークの基本設定(intra)」画面では、SURFNAVIのローカル(イントラネット)側ネットワークの設定を行います。以下の項目を指定することができます。

- **ホスト名**

ローカル側ネットワークでのホスト名を指定します。

- **ドメイン名**

ローカル側ネットワークのドメイン名を指定します。

- **IPアドレス**

ローカル側ネットワークでのIPアドレスを指定します。

- **ネットマスク**

ローカル側ネットワークのサブネットマスクを指定します。

- **ゲートウェイ**

既定値のゲートウェイを指定します。プロバイダ側の基本設定がある場合は、ローカル側では指定できません。

各項目の詳細は、画面上の[ヘルプ]をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。

「ネットワークのルーティング設定(intra)」では、SURFNAVIのローカル(イントラネット)側のルーティング設定を行います。

- **追加**

[追加]をクリックすると、ルーティング追加用の画面になります。ゲートウェイ(Gateway)にゲートウェイを、相手アドレス(Destination)に相手アドレスの一覧を指定します。

■ ネットワークの基本設定 (intra)

ホスト名: surfnavi

ドメイン名: inner.domain

IPアドレス: 10.20.30.4

ネットマスク: 255.255.255.0

設定

■ ネットワーク経路の定義 (intra)

ゲートウェイ (Gateway): gate

相手アドレス (Destination):  
10.20.50.0/255.255.255.0  
10.20.70.0/255.255.255.0  
10.20.90.0/255.255.255.0

設定 キャンセル

- 変更

Gateway欄のアドレスをクリックすると、ルーティング変更用の画面になります。相手アドレス(Destination)を変更します。

- 削除

ルーティング削除を行います。

## ネットワークの基本設定(プロバイダ側)

「基本設定(2)」をクリックすると「ネットワークの基本設定(extra)」画面および「ネットワークのルーティング設定(extra)」の画面になります。

「ネットワークの基本設定(extra)」では、本装置のプロバイダ(インターネット)側ネットワークの設定を行います。

「ネットワークのルーティング設定(extra)」では、SURFNAVIのプロバイダ側のルーティング設定を行います。

詳細は、画面上の「ヘルプ」をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。

■ ネットワークの基本設定 (extra)

ホスト名: hello

ドメイン名: outer.domain

IPアドレス: \*\*\*.\*\*\*.\*\*\*.\*\*\*

ネットマスク: 255.255.255.0

ゲートウェイ: \*\*\*.\*\*\*.\*\*\*.\*\*\*

設定

## DNSの設定

DNSの設定は、「ネットワーク」-「DNS」と「ネットワーク」-「HOSTS」で行います。

### DNS IP(or NAME)情報の検索

DNS情報の検索(名前の解決)を行います。ホスト名またはIPアドレスを指定して、「検索」をクリックしてください。名前の解決を行ったDNSサーバの情報と、解決された名前(ホスト名とIPアドレス)の情報が表示されます。

■ IP+DOMAIN情報の検索

検索 Host Information: \_\_\_\_\_

### DNS RESOLVER情報の設定

このサーバシステムが名前を解決する場合に使用するDNSサーバを、IPアドレスで指定します。複数個の指定を行う場合は、空白で区切ってください(左側が優先)。

■ RESOLVER情報の設定

DNS-SERVER情報(IP)

追加 \_\_\_\_\_

削除 127.0.0.1



## DNS ZONE情報の設定

マスタまたはスレーブのDNSサーバを運用する場合に管理するゾーンの情報を設定します。選択するサーバシステムのネットワークモデルにより、管理可能なゾーン数は変わります。

- **ドメイン名**

管理するドメイン名を指定します。

- **ネットワーク**

管理するネットワークを、IPアドレス/プレフィックス(例: 192.168.16.0/24)の形式、もしくはIPアドレス/ネットマスク(例: 192.168.16.0/255.255.255.0)の形式で指定します。

- **逆引きゾーン名**

逆引きゾーン名を指定します。ネットワークのプレフィックス長が、8、16、24の場合には必要ありません。ネットワークのプレフィックス長が8、16、24でない場合は、ISPなどの指定に従って入力してください。

- **DNSサーバ**

マスタサーバを運用する場合に、DNSサーバの一覧を、完全な名前指定します(NSレコードに対応)。なお、最初のエントリは、このサーバシステム自体を示し、削除できません。

- **メールサーバ**

マスタサーバを運用する場合に、メールサーバを完全な名前指定します(MXレコードに対応)。先に指定されたものほど、メールサーバの優先度は高くなります。



- DNS ZONEの基本的な情報は、ネットワークの基本設定を変更するか、ネットワークモデルを変更すると、自動的に再設定されます。
- 管理するネットワークは、プレフィックス長が8以上である必要があります。
- 管理するネットワークが8、16、24以外のプレフィックス長のネットワークを指定した場合、このゾーンの名前を解決するためには、CNAMEレコードが適切に設定された別のDNSサーバが必要です(通常はISPが運用しています)。

DNS-ZONE情報の設定	
<b>ZONE(1)</b>	
ドメイン:	zone1.domain.com
ネットワーク:	xxx.xxx.xxx.xxx/xx
逆引きゾーン名:	
設定	
<b>ZONE(2)</b>	
ドメイン:	zone2.domain.com
ネットワーク:	xxx.xxx.xxx.xxx/xx
逆引きゾーン名:	
設定	

## DNS HINTファイルの更新

DNSヒントファイルの更新が必要となった場合に、URLにFTPサイトを指定して、更新を行ってください。

DNS-HINTファイルの更新	
更新	URL: ftp://ftp.rs.internic.net/domain/named.ca

## HOSTS情報

ホストデータベースの編集を行います。DNSマスタサーバを運用している場合、このホストデータベースが DNSゾーンデータベースに変換されます。

- 追加

ホストの情報を、IPアドレスと名前の組で指定して追加します。入力フィールドは、DNS情報の「DNS ZONE情報の設定」で指定されたネットワークアドレスに対応しています。

- 削除

ホストの情報を削除します。なお、このサーバシステムのホスト情報は削除できません。

- 変更

すでに登録されているホスト情報の IPアドレス部分を選択すると、HOSTS情報の変更が行えます。wwwなどのホストの別名もここで登録できます。なお、このサーバシステムのホスト名はここでは変更できません。

- DNSへの登録

DNSマスタサーバを運用している場合に、HOSTS情報の下段に現れる「DNS情報を更新する」というボタンをクリックすると、DNS情報(ゾーンデータベース)が更新されます。



短ホスト名で登録されたホスト情報は、DNSへの登録時に完全なホスト名に補完されます。



ネットワークの基本設定を変更するか、ネットワークモデルを変更すると、このサーバシステムのホスト名に対するエントリは再登録され、別名の登録は消去されます。

# DHCPサーバの設定

「DHCP」をクリックすると「ダイナミックホスト設定 (DHCP)」画面になります。DHCPサーバはクライアントからの要求に応じて、動的なIPアドレスをクライアントに割り当てます。

SURFNAVIをDHCPサーバとして利用する場合、「DHCPサーバになる」にチェックを入れ、クライアントに割り当てられるIPアドレス (リースアドレス) の開始アドレス (From:) と終了アドレス (To:) を入力し、「設定」をクリックします。

DHCP-SERVER情報の設定	
DHCPサーバ情報の設定を行います。 【入力項目】DHCPサーバの使用、リースアドレス	
<input checked="" type="checkbox"/> DHCPサーバの使用	
ドメイン名:	xxx.xxx.xxx.xxx
ネットワーク:	10.34.88.0
ネットマスク:	255.255.255.0
ブロードキャスト:	10.34.88.255
ゲートウェイ:	10.34.88.200
DNSサーバ:	10.34.88.1
リースアドレス:	
From:	10.0.0.100
To:	10.0.0.200
設定	

# SNMPエージェントの設定

「SNMP」をクリックすると「SNMPエージェントの設定」画面になります。SNMPエージェントは、NECのESMPROシリーズやSystemScopeシリーズなどの管理マネージャソフトから、そのマシンを管理する際に必要となるエージェントソフトです。管理マネージャからの情報取得要求に応えたり、トラップメッセージを管理マネージャに送信します。

コミュニティの追加/削除、システム情報の設定、認証トラップの生成、およびトラップ送信先の追加/削除の設定を行うことができます。

コミュニティ名の設定	
設定	コミュニティ名: public

システム情報の設定	
設定	設置場所: Unknown <configure /etc/snmp/snmp.local.co...
	管理者名: Root <root@localhost> <configure /etc/snmp/...

トラップ送信先の設定	
追加	
	public

その他の設定	
設定	<input type="checkbox"/> 認証トラップを生成

**重要** 設定項目の詳細については、画面上の[ヘルプ]をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。

## ● コミュニティ名の設定

このネットワーク管理エージェントにアクセス可能な管理マネージャマシンを登録します。

- **システム情報の設定**

このマシンが設置されている場所や管理者のメールアドレスなどを記入しておいてください。この情報は必要に応じて管理マネージャから読み取られます(日本語を用いると、マネージャ側で文字が化けることがあります)。

- **トラップ送信先の設定**

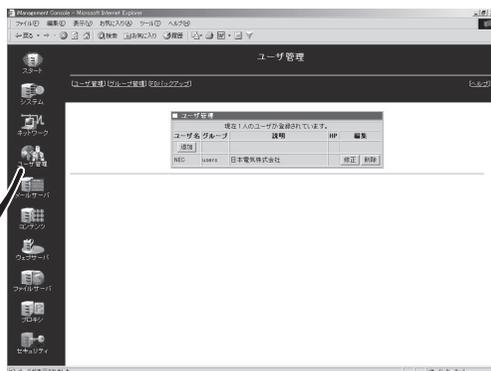
このマシンに何らかの障害が発生した際に、トラップメッセージを送信する先(管理マネージャ)の一覧を登録します。

- **その他の設定**

不正な管理マネージャが不正なコミュニティ名でアクセスしてきたときに、その旨を正規の管理マネージャに通知するかどうかを指定します。

# ユーザ管理

管理者は、iManagement Consoleからユーザーの新規追加、ユーザーの登録情報の変更、グループの追加など詳細な設定が可能であり、ユーザーの一元的な管理を実現できます。また、一般ユーザーもiManagement Consoleから自分のパスワードの変更などができます。



## ユーザ管理

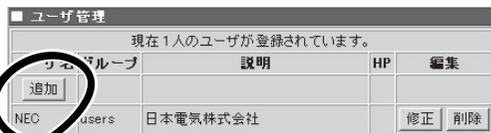
ユーザーの追加・削除などを行います。

### 新規ユーザーの追加

新規にユーザーを追加する場合の手順を以下に示します。

1. 「ユーザ管理」画面で「追加」をクリックする。

「新規ユーザ」画面が表示されます。



2. 追加したいユーザー情報を入力し、「設定」をクリックする。

ダイナミックIPモデルではメールのダウンロードに関する設定項目も表示されます。

イントラネットモデル/インターネットモデル/  
DMZネットモデルの場合

ダイナミックIPモデルの場合

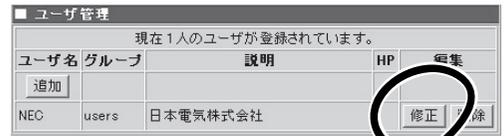
### 重要

「ダイヤルアップによるメール送受信」(96ページ)も確認してください。

## ユーザー情報の変更

登録済みのユーザー情報を変更します。

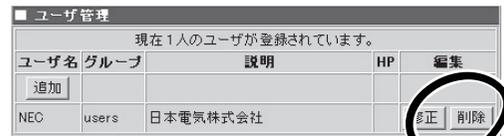
1. 「ユーザ管理」画面で変更したいユーザーの「修正」をクリックする。  
「ユーザ情報変更」画面が表示されます。
2. 該当する項目の情報を入力して「設定」をクリックする。



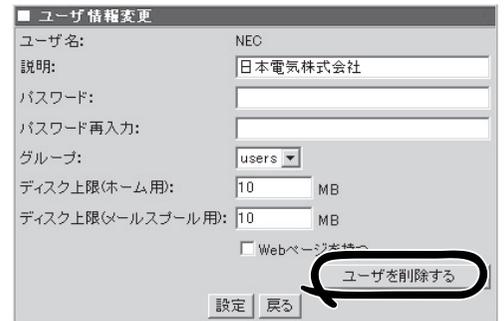
この画面からユーザを削除することもできます。

## ユーザー情報の削除

登録済みのユーザー情報を削除します。



削除したいユーザーの「ユーザ情報変更」画面から削除することもできます。

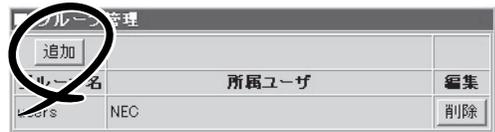


# グループ管理

グループ管理では、ユーザーが所属するグループの表示/設定ができます。

## 新規グループの追加

デフォルトではusersグループが存在します。その他にユーザーが所属するグループの追加を行いたい場合は、[追加]をクリックしてください。

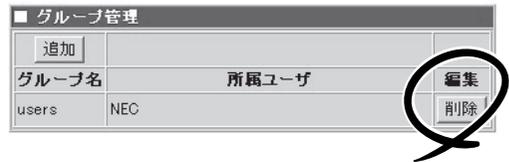


## グループの削除

管理者が新規に追加したグループの削除を行いたい場合は、[削除]をクリックしてください。

グループにまだ1人でも所属している場合は、グループの削除は行えません。

削除したいグループに所属しているユーザーの所属グループを変更するか、ユーザーを削除してください。また、デフォルトのusersグループは削除できません。



# FDバックアップ

FDバックアップでは、管理者が登録したユーザーやグループを初期導入ディスクを使いバックアップ/リストアができます。

バックアップ/リストアの際は、初期導入ディスクをフロッピーディスクドライブに挿入してください。

以下の項目がバックアップされます。

- ユーザ名
- 説明
- パスワード
- 所属グループ
- ディスク上限(ホーム用)
- ディスク上限(メール用)
- メールダウンロード用ユーザ名(ダイナミックIPモデルのみ)
- メールダウンロード用パスワード(ダイナミックIPモデルのみ)
- POPサーバ名(ダイナミックIPモデルのみ)



ユーザー情報のバックアップをした後に新規に追加したユーザー・グループは、ユーザー情報リストア後には消えてしまいます。ただしそこで消えたユーザーのホームディレクトリとその内容は残ったままになります。このため、バックアップ後に追加したユーザのユーザ名が、リストアされるユーザーと一致した場合、リストアされるユーザーのホームディレクトリには以前のユーザーのファイルが残ってしまいますので、ご注意ください。

# メールサーバ

SURFNAVIの管理者は、iManagement Consoleから容易にメーリングリストを作成できるエイリアスの設定、SPAMにも対応したメールの受信／転送ルールを設定（イントラネット接続／インターネット接続）、契約されたインターネットサービスプロバイダ（ISP）のSMTP/POPサーバへの接続間隔（ダイヤルアップ接続）など、各接続形態に応じた設定が可能であり、非常に容易に、かつ高いセキュリティを持ったメールサーバを実現することができます。また、一般ユーザーもiManagement Consoleから自分宛メールの転送先を設定することができます。

（イントラネットモデル/インターネットモデル/  
DMZネットモデル）



（ダイナミックIPモデル）

項目をクリックするとそれぞれの選択画面が表示される（「メールサーバの設定」はモデルによって設定項目が異なる）



## ユーザー管理との連動

SURFNAVIでは、iManagement Consoleのユーザー管理機能で新規にユーザーを追加すると、自動的にその追加されたユーザー用のメールプール領域が作成されます。

iManagement Consoleの「ユーザ管理」画面から新規にユーザーを追加すればメールサーバ機能を利用できるようになります。メールプール用のディスク上限値(MB)はユーザーごとに設定できます。

各ユーザーは、クライアント側のメールクライアントソフトで、メールサーバへのログイン名に各ユーザー名を、メールサーバ名(SMTP/POPサーバ)にSURFNAVIのIPアドレス、または名前を指定することにより、メールの送受信が可能になります。



「SURFNAVIのユーザー名@ドメイン名」形式のアドレス宛に送付されたメールは、SURFNAVI上の該当するユーザー用メールプール領域に蓄積されます。



インターネット接続の場合は、メールアドレスにインターネット側のドメイン名を指定してください。

## ダイヤルアップによるメールの送受信

SURFNAVIをダイヤルアップで接続している場合は、ユーザーからのメール送信要求に対してメールをメールキューに一時的に蓄積しておき、一定時間おきにISPと接続し、まとめて転送します(ただし、ローカル内のメールは即時に処理されます)。また、メールの受信に関しても、一定時間おきにISPと接続し、ISPのPOP3サーバからユーザー宛のメールを取り込んでメールプールに保存します。



- ダイヤルアップ接続ではSPAMメールへの対策はできません。
- iManagement Consoleの「ユーザ管理」画面で「メールダウンロードを行う」にチェックして、メールダウンロード用パスワードを入力してください。ISPからユーザーごとに異なるPOPサーバを指定した場合は、個別にPOPサーバを指定してください。
- メールアドレスにはISPで設定されているものを指定してください。

# エイリアスの設定

iManagement Consoleのエイリアス設定画面から、エイリアスの追加設定を行うことにより、1つのアドレスで複数の宛先へメールを送信することが可能になります。



admin宛/web宛のメールは、そのままでは読む人がいないので、適当なユーザー宛にメールエイリアスを設定してください



# メール受信／転送ルールの設定

SURFNAVIをイントラネット／インターネットに接続している場合は、iManagement Consoleからメールを受信したり、転送したりするドメインを限定することができます。また、SPAMメール対策の設定を行うことにより、セキュリティを考慮したメールサーバの運用を行うことができます。

## スプールホスト名

メールのスプールホストとして利用するサーバのホスト名を記入します。この欄に何も入力しないで[設定]をクリックした場合は、スプールホストを利用しない設定となります。

## 下記のドメイン宛のメールは受信する

メールの宛先がここで指定されたドメインと一致した場合、メールを受信します。

## 下記のドメイン／アドレスからのメールは転送する

メール送信元のドメインまたはアドレスがここに指定されたドメイン／アドレスと一致した場合、メールの転送が許可されます。

## 下記のドメイン宛のメールは転送する

外部のホストから受信したメールの宛先がここで指定されたドメインと一致した場合、メールの転送が許可されます。

## 下記のドメイン／アドレスからのメールは拒絶する(SPAM対策)

メール送信元のドメインまたはアドレスがここで指定されたドメイン／アドレスと一致した場合、メールを拒絶します(メール送信元にエラーメッセージが返信されます)。

## 下記のドメイン／アドレスからのメールは破棄する(SPAM対策)

メール送信元のドメインまたはアドレスがここで指定されたドメイン／アドレスと一致した場合、メールを拒絶します(メール送信元にエラーメッセージは返信されません)。



設定項目の詳細については、画面上の[ヘルプ]をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。

■ メールサーバの設定(イントラネット/インターネット)

スプールホスト名: xxx.xxx.xxx.xxx

下記のドメイン宛のメールは受信する

xxx.xxx.xxx.xxx

下記のドメイン/アドレスからのメールは転送する

xxx.xxx.xxx.xxx  
xx.xx.xx.xx/xx  
xx.xx.xx.xx/xx

下記のドメイン宛のメールは転送する

hegera.com

下記のドメイン/アドレスからのメールは拒絶する(SPAM対策)

spammers.com

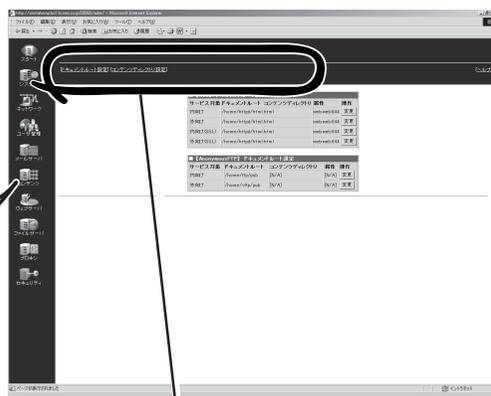
下記のドメイン/アドレスからのメールは破棄する(SPAM対策)

bad-spammers.com

設定

# コンテンツ

SURFNAVIの管理者は、iManagement ConsoleからWebサーバ/AnonymousFTPサーバで公開するコンテンツのドキュメントルートの切り替えや、各種サービスで 사용되는多様なコンテンツの効率的な管理を容易に実現できます。



項目をクリックするとそれぞれの選択画面が表示される

## コンテンツマネージャとは？

SURFNAVIが提供するWebサーバ、AnonymousFTPサーバ、SMBサーバ、ファイルのアップロード機能において取り扱う多様な「コンテンツ」を効率よく配置するため、大きく以下の2つの機能を提供します。

- ドキュメントルート設定
- コンテンツディレクトリ設定

「ドキュメントルート設定」では、Webサーバ/AnonymousFTPサーバにおいてプロバイダ側ネットワーク(外向け)/ローカル側ネットワーク(内向け)それぞれに対し公開するコンテンツのドキュメントルートを必要に応じ簡単な操作で切り替えることができます。

「コンテンツディレクトリ設定」では、各種サービスで 사용되는コンテンツを保存する「コンテンツディレクトリ」の作成、削除、リンク設定などを容易に行うことができます。

なお、表示/設定項目に関しては、選択されたモデルにより異なる場合があります。

# 初期設定状態

/home/contents/a以下にデフォルトで以下のコンテンツディレクトリが作成されています。これらのディレクトリは削除することができません。

- **html**

Webサーバ用コンテンツディレクトリです。/home/httpd/htmlとリンク(シンボリックリンク)されており、デフォルトで内向け及び外向けWebサーバのドキュメントルートに設定されています。

- **cgi-bin**

Webサーバ用コンテンツディレクトリです。/home/httpd/cgi-binとリンク設定されています。

- **icons**

Webサーバ用コンテンツディレクトリです。/home/httpd/iconsとリンク設定されています。

- **users**

一般ユーザ用Webドキュメントルート(各ユーザのホームディレクトリ以下のpublic\_htmlディレクトリ)とのリンクファイルが保存される特別なコンテンツディレクトリです。上記リンクファイルは、「ユーザ管理」でユーザーのWebページを持つ設定を有効にした場合に自動的に作成され、設定が解除された場合またはユーザーが削除された場合に自動的に削除されます。

- **ftp\_public**

内向けAnonymousFTP用コンテンツディレクトリです。ローカルリンクが設定されており、容易に内向けAnonymousFTP用ドキュメントルートに設定できます。

- **vftp\_public**

外向けAnonymousFTP用コンテンツディレクトリです。ローカルリンクが設定されており、容易に外向けAnonymousFTP用ドキュメントルートに設定できます。

# ドキュメントルート設定

ドキュメントルート設定では、Webサーバ/AnonymousFTPサーバにおいてプロバイダ側ネットワーク(外向け)/ローカル側ネットワーク(内向け)それぞれに対し公開するコンテンツのドキュメントルートを必要に応じ簡単な操作で切り替えることができます。

サービス対象	ドキュメントルート	コンテンツディレクトリ	属性	操作
内向け	/home/httpd/html	html	web:web:644	変更
外向け	/home/httpd/html	html	web:web:644	変更
内向け(SSL)	/home/httpd/html	html	web:web:644	変更
外向け(SSL)	/home/httpd/html	html	web:web:644	変更

サービス対象	ドキュメントルート	コンテンツディレクトリ	属性	操作
内向け	/home/ftp/pub	[N/A]	[N/A]	変更
外向け	/home/vftp/pub	[N/A]	[N/A]	変更

## 【Web】ドキュメントルート変更

【Web】ドキュメントルート変更では、以下の各Webサーバにおいて公開するドキュメントルートを設定します。

- 内向け: HTTPサーバ(内向け)
- 外向け: HTTPサーバ(外向け)
- 内向け(SSL): HTTPSサーバ(内向け)
- 外向け(SSL): HTTPSサーバ(外向け)

指定するドキュメントルートは、以下の5つの中から選択することができます。

- /home/httpd/html(デフォルトのドキュメントルート)
- /home/httpd/html1
- /home/httpd/html2
- /home/httpd/html3
- /home/httpd/html4

また、リンクステータス一覧では、ドキュメントルートとコンテンツディレクトリとのリンク状態を確認することができます。リンク状態を変更する場合は「リンク設定」ボタンをクリックし「【Web】リンク変更」画面から設定できます(後述の「【Web】リンク変更」を参照してください)。

### ■【Web】ドキュメントルート変更

■ サービス対象: 内向け

■ ドキュメントルート:  
/home/httpd/html ▼

■ リンクステータス:

ドキュメントルート	コンテンツディレクトリ
/home/httpd/html	html
/home/httpd/html1	[N/A]
/home/httpd/html2	[N/A]
/home/httpd/html3	[N/A]
/home/httpd/html4	[N/A]

リンク設定

実行 戻る

## 【設定例】

HTTPサーバ(外向け)のドキュメントルートを「/home/httpd/html1」に変更する手順を以下に示します(「/home/httpd/html1」がコンテンツディレクトリとリンク設定されていることを前提とします)。

1. 「ドキュメントルート設定」をクリックして表示される「【Web】ドキュメントルート設定」一覧の中の「外向け」に対応した「変更」をクリックする。
2. 「【Web】ドキュメントルート変更」画面において、「ドキュメントルート」のメニューから「/home/httpd/html1」を選択する。
3. 「実行」をクリックする。



リンク設定されていないドキュメントルートは、リンクステータス一覧に「[N/A]」と表示されます(デフォルトでは「/home/httpd/html」のみリンク設定されています)。



リンク設定されていない場合はドキュメントルートに指定することはできません。「リンク設定」ボタンをクリックし、あらかじめ適切にリンク設定をしてください。

## 【Web】リンク変更

【Web】リンク変更では、Web用ドキュメントルートとコンテンツディレクトリとのリンク設定および「cgi-bin」、「icons」とコンテンツディレクトリとのリンク設定を行います。

また、リンクステータス一覧では、ドキュメントルートとコンテンツディレクトリとのリンク状態を確認することができます。

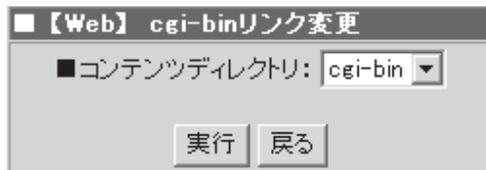
【Web】ドキュメントルートリンク変更では、リンク設定するドキュメントルートとコンテンツディレクトリを選択します。なお、リンク候補として選択可能なコンテンツディレクトリは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ディレクトリ属性: Web
- アクセス権: 644
- 「icons」コンテンツディレクトリを除く

ドキュメントルート	コンテンツディレクトリ
/home/httpd/html	html
/home/httpd/html1	[N/A]
/home/httpd/html2	[N/A]
/home/httpd/html3	[N/A]
/home/httpd/html4	[N/A]

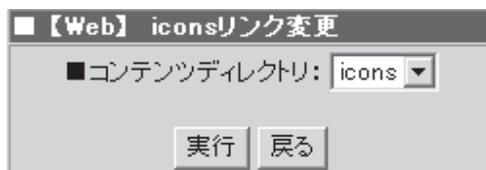
【Web】cgi-binリンク変更では、/home/httpd/cgi-bin とリンク設定するコンテンツディレクトリを選択します。なお、リンク候補として選択可能なコンテンツディレクトリは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ディレクトリ属性: Web
- アクセス権: 755



【Web】iconsリンク変更では、/home/httpd/iconsとリンク設定するコンテンツディレクトリを選択します。なお、リンク候補として選択可能なコンテンツディレクトリは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ディレクトリ属性: Web
- アクセス権: 644
- 「html」コンテンツディレクトリを除く



#### 【設定例-1】

ドキュメントルート「/home/httpd/html1」とコンテンツディレクトリ「www」をリンク設定する手順を以下に示します（「www」コンテンツディレクトリが適切に作成されていることを前提とします）。

1. 「ドキュメントルート設定」をクリックして表示される「【Web】ドキュメントルート設定」一覧の中の「変更」をクリックする。
2. 「【Web】ドキュメントルート変更」画面で「リンク設定」をクリックする。
3. 「【Web】ドキュメントルートリンク変更」画面で「ドキュメントルート」のメニューから「/home/httpd/html1」を選択する。
4. 同じく「コンテンツディレクトリ」のメニューから「www」を選択する。
5. 「実行」をクリックする。

### [設定例-2]

「cgi-bin」にコンテンツディレクトリ「cgi-bin2」をリンク設定する手順を以下に示します（「cgi-bin2」コンテンツディレクトリが適切に作成されていることを前提とします）。

1. 「ドキュメントルート設定」をクリックして表示される「【Web】ドキュメントルート設定」一覧の中の「変更」をクリックする。
2. 「【Web】ドキュメントルート変更」画面の中の「リンク設定」をクリックする。
3. 「【Web】cgi-binリンク変更」画面で、「コンテンツディレクトリ」のメニューから「cgi-bin2」を選択する。
4. 「実行」をクリックする。

### [設定例-3]

「icons」にコンテンツディレクトリ「icons2」をリンク設定する手順を以下に示します（「icons2」コンテンツディレクトリが適切に作成されていることを前提とします）。

1. 「ドキュメントルート設定」をクリックして表示される「【Web】ドキュメントルート設定」一覧の中の「変更」をクリックする。
2. 「【Web】ドキュメントルート変更」画面の中の「リンク設定」をクリックする。
3. 「【Web】iconsリンク変更」画面で、「コンテンツディレクトリ」のメニューから「icons2」を選択する。
4. 「実行」をクリックする。



ヒント

- 「cgi-bin」は、デフォルトで /home/contents/a/cgi-bin とのリンクが設定されています。
- 「icons」は、デフォルトで /home/contents/a/icons とのリンクが設定されています。
- ディレクトリ属性およびアクセス権については、後述の「コンテンツディレクトリ追加」を参照してください。

## 【AnonymousFTP】ドキュメントルート変更

【AnonymousFTP】ドキュメントルート変更では、内向け / 外向けそれぞれのAnonymousFTPサーバで公開するドキュメントルートにリンクされるコンテンツディレクトリを設定します。

AnonymousFTP用ドキュメントルートは以下のように固定されています。

- /home/ftp/pub: 内向け
- /home/vftp/pub: 外向け

■ 【AnonymousFTP】ドキュメントルート変更

■ サービス対象: 内向け

■ ドキュメントルート: /home/ftp/pub

■ コンテンツディレクトリ:  
ftp\_public ▼

■ リンクステータス:

ドキュメントルート	コンテンツディレクトリ
/home/ftp/pub	[N/A]
/home/vftp/pub	[N/A]

実行 戻る

内向けAnonymousFTPサービスのリンク候補として選択可能なコンテンツディレクトリは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ディレクトリ属性がAnonymousFTP(内向け)であること
- 「link」が設定されていること

外向けAnonymousFTPサービスのリンク候補として選択可能なコンテンツディレクトリは、以下の条件を満たしている必要があります。

- ディレクトリ属性がAnonymousFTP(外向け)であること
- 「link」が設定されていること

また、リンクステータス一覧では、ドキュメントルートとコンテンツディレクトリとのリンク状態を確認することができます。

### 【設定例】

内向けAnonymousFTPサービスのドキュメントルート(/home/ftp/pub)をコンテンツディレクトリ「ftp\_public」に設定する手順を以下に示します。

1. 「ドキュメントルート設定」をクリックして表示される「【AnonymousFTP】ドキュメントルート設定」一覧の中の「内向け」に対応した「変更」をクリックする。
2. 「【AnonymousFTP】ドキュメントルート変更」画面で「コンテンツディレクトリ」のメニューから「ftp\_public」を選択する。
3. 「実行」をクリックする。



- 内向け/外向けAnonymousFTPサービス用ドキュメントルートとして、それぞれ以下のコンテンツディレクトリがデフォルトで選択可能です。
  - /home/contents/a/ftp\_public: 内向け
  - /home/contents/a/vftp\_public: 外向け
- 「llink」については、後述の「リンク設定」を参照してください。
- リンク設定されていないドキュメントルートは、リンクステータス一覧に「[N/A]」と表示されます(デフォルトでは内向け/外向け共にリンク設定されていません)。



重要

- anonymousユーザがFTP接続中の場合、ドキュメントルートの変更に失敗する場合があります。ファイルサーバのファイル転送(FTP)設定で、アクセス拒否に設定を変更してからドキュメントルートを変更してください。
- システムの再起動またはモデル変更をすると、AnonymousFTPのドキュメントルートは未設定になります。サービスを継続して利用される場合は、適切なドキュメントルートに設定し直してください。
- 存在するコンテンツディレクトリの「llink」をすべて削除した状態でシステムの再起動またはモデル変更をおこなった場合、起動後llinkを作成してもドキュメントルート変更に失敗する場合があります。失敗した場合は、llinkが存在する状態でシステムを再起動し、再度ドキュメントルート変更を実行してください。

## コンテンツディレクトリ設定

コンテンツディレクトリ設定では、各種サービスで使用されるコンテンツを保存する「コンテンツディレクトリ」の作成、削除、リンク設定などを容易に行うことができます。

■ コンテンツディレクトリ設定							
ディレクトリ名	共有名	管理者	サービス	属性	リンク	コメント	操作
追加							
cgi-bin	cgi-bin	web	Web	web:web:755	/home/httpd/cgi-bin【slink】	CGI Files	変更 リンク Upload
ftp_public	ftp_public	web	FTP(内)	ftp:ftp:644	【llink】	FTP Files (Intranet)	変更 リンク Upload
html	html	web	Web	web:web:644	/home/httpd/html【slink】	Web Files	変更 リンク Upload
icons	icons	web	Web	web:web:644	/home/httpd/icons【slink】	Icon Files	変更 リンク Upload
users	users	web	UserWeb	root:root:644		User's Web Files	変更 リンク Upload
vftp_public	vftp_public	web	FTP(外)	web:web:644	【llink】	FTP Files (Internet)	変更 リンク Upload

コンテンツディレクトリを追加する場合は、「追加」をクリックし、設定してください(後述の「コンテンツディレクトリ追加」を参照してください)。

コンテンツディレクトリの設定を変更あるいは削除する場合は、「変更」をクリックし設定変更/削除を行ってください(後述の「コンテンツディレクトリ設定変更」を参照してください)。

コンテンツディレクトリのリンク設定をする場合は、「リンク」をクリックし、設定してください(後述の「リンク設定」を参照してください)。

コンテンツディレクトリのファイルアップロードの設定をする場合は、「Upload」をクリックし、設定してください(後述の「ファイルのアップロード」を参照してください)。



- 「属性」欄の表示形式は、「所有者:所有グループ:アクセス権」を表します。
- 「リンク」欄に表示される各リンクは以下のように対応しています。
  - － **[slink]**: シンボリックリンク (Web/SMBで使用)
  - － **[llink]**: ローカルリンク (AnonymousFTPで使用)
  - － **[upload]**: ファイルアップロード (設定有効の場合表示)

## コンテンツディレクトリ追加

Webサーバ、AnonymousFTPサーバ、SMBサーバなどの各サービスに対応したコンテンツディレクトリを追加することができます。追加したコンテンツディレクトリは、/home/contents/a 以下に作成されます。

「ディレクトリ属性」で作成するコンテンツディレクトリの属性を選択します。選択項目として、使用されるサービスを指定する[サービス]、コンテンツディレクトリの所有者と所有グループを指定する[Owner](表示形式は[所有者:所有グループ]、コンテンツディレクトリに作成されるファイルのアクセス権を指定する[Access]が存在し、使用目的に応じてそれぞれ適切に選択してください。([Access]で選択する3桁の数字は、左から「所有者」、「所有グループ」、「その他のユーザ」のそれぞれのユーザに対するアクセス権を表します。各数字は、読み込み可の場合は「4」、書き込み可の場合は「2」、実行可の場合は「1」のそれぞれの許可条件の総和を意味します。

[サービス]	[Owner]	[Access]
<input checked="" type="radio"/> Web:	web:web	644
<input type="radio"/> AnonymousFTP(内向け):	web:web	644
<input type="radio"/> AnonymousFTP(外向け):	web:web	644
<input type="radio"/> Samba(指定グループ向け):	[user]:test	664
<input type="radio"/> Samba(全ユーザ向け):	smbguest:public	664
<input type="radio"/> 機能無し:	root:root	644

**【例】** 「664」の場合は、「所有者」および「所有グループ」に対し読み込み(4)と書き込み(2)が許可されており、「その他のユーザ」に対しては読み込み(4)のみが許可されていることを意味します。

### 【設定例-1】

Webサービスのドキュメントルート用コンテンツディレクトリ「www」を作成する手順を以下に示します。

1. 「コンテンツディレクトリ設定」画面中の[追加]をクリックして表示される「コンテンツディレクトリ追加」画面で以下の入力/選択をする。

- ディレクトリ名: www
- 共有名: (省略。必要に応じ指定)
- コメント: (省略。必要に応じ指定)
- ディレクトリ管理者: (省略。必要に応じ指定)
- ディレクトリ属性
  - サービス: Web
  - Owner: web:web
  - Access: 644
- Sambaアクセス制御: 読み書き(必要に応じ適切に選択)

2. [実行]をクリックする。

### [設定例-2]

Webサービスのcgi-bin用コンテンツディレクトリ「cgi-bin2」を作成する手順を以下に示します。

1. 「コンテンツディレクトリ設定」画面中の[追加]をクリックして表示される「コンテンツディレクトリ追加」画面で以下の入力/選択をする。

- ディレクトリ名: cgi-bin2
- 共有名: (省略。必要に応じ指定)
- コメント: (省略。必要に応じ指定)
- ディレクトリ管理者: (省略。必要に応じ指定)
- ディレクトリ属性
  - サービス: Web
  - Owner: web:web
  - Access: 755
- Sambaアクセス制御: 読み書き(必要に応じ適切に選択)

2. [実行]をクリックする。

### [設定例-3]

内向けAnonymousFTPサービスのドキュメントルート用コンテンツディレクトリ「local\_ftp」を作成する手順を以下に示します。

1. 「コンテンツディレクトリ設定」画面中の[追加]をクリックして表示される「コンテンツディレクトリ追加」画面で以下の入力/選択をする。

- ディレクトリ名: local\_ftp
- 共有名: (省略。必要に応じ指定)
- コメント: (省略。必要に応じ指定)
- ディレクトリ管理者: (省略。必要に応じ指定)
- ディレクトリ属性
  - サービス: AnonymousFTP(内向け)
  - Owner: ftp:ftp(必要に応じ適切に選択)
  - Access: 644(必要に応じ適切に選択)
- Sambaアクセス制御: 読み書き(必要に応じ適切に選択)

2. [実行]をクリックする。

## [設定例-4]

「users」グループで共有するためのコンテンツディレクトリ「users\_share」を作成する手順を以下に示します。

1. 「コンテンツディレクトリ設定」画面中の[追加]をクリックして表示される「コンテンツディレクトリ追加」画面で以下の入力/選択をする。
  - ディレクトリ名: users\_share  
(省略。必要に応じ指定)
  - 共有名: (省略。必要に応じ指定)
  - コメント: (省略。必要に応じ指定)
  - ディレクトリ管理者: (省略。必要に応じ指定)
  - ディレクトリ属性
    - サービス: Samba(指定グループ向け)
    - Owner: [user]:users
    - Access: 644(必要に応じ適切に選択)
  - Sambaアクセス制御: 読み書き(必要に応じ適切に選択)
2. [実行]をクリックする。



- 各設定項目の詳細については、画面上の[ヘルプ]をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。
- コンテンツディレクトリ名およびディレクトリ属性は、作成後に変更することができませんので注意してください。

## コンテンツディレクトリ設定変更

コンテンツディレクトリの設定変更や不要となったコンテンツディレクトリを削除することができます。

■ コンテンツディレクトリ設定変更

■ コンテンツディレクトリ: html

■ 共有名:  
html

■ コメント:  
Web Files

■ ディレクトリ管理者:  
web

■ Sambaアクセス制御:  
 読み書き    読込のみ

ディレクトリ削除

実行   戻る

### [設定例-1]

「www」コンテンツディレクトリの共有名を「www\_out」、Sambaアクセス制御を「読み込みのみ」に変更する手順を以下に示します。

1. 「コンテンツディレクトリ設定」をクリックし「www」に対応した[変更]をクリックする。
2. 「コンテンツディレクトリ設定変更」画面で以下の入力/選択をする。
  - － 共有名:                      www\_out
  - － Sambaアクセス制御:        読み込みのみ
3. [実行]をクリックする。

### [設定例-2]

「test」コンテンツディレクトリを削除する手順を以下に示します。

1. 「コンテンツディレクトリ設定」をクリックし「test」に対応した[変更]をクリックする。
2. 「コンテンツディレクトリ設定変更」画面で[ディレクトリ削除]をクリックする。  
確認メッセージが表示されます。
3. [OK]をクリックする。



- デフォルトで作成されている「html」、 「cgi-bin」、 「icons」、 「users」、 「ftp\_public」、 「vftp\_public」コンテンツディレクトリは削除できません。
- リンク設定がされているコンテンツディレクトリは削除できません。 [リンク]をクリックし設定されているリンクを削除してからコンテンツディレクトリを削除してください。
- ディレクトリ以下にファイルが存在するコンテンツディレクトリは削除できません。ディレクトリ以下を空にしてからコンテンツディレクトリを削除してください。

## リンク設定

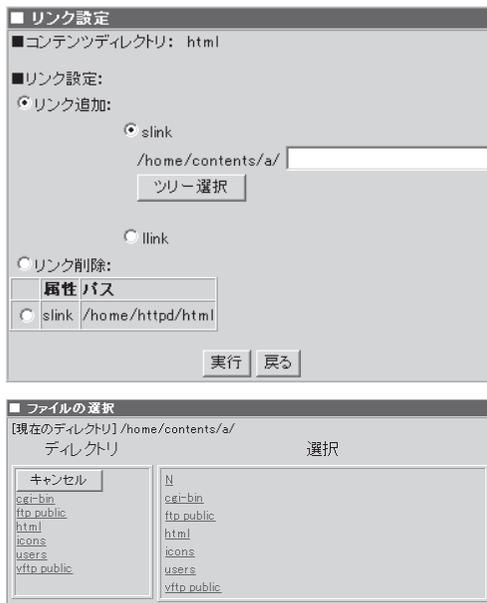
コンテンツディレクトリのリンクを設定できます。リンクを設定することにより、各サービス間のコンテンツ共有を効率的に実現することができます。

追加で設定できるリンクは以下になります。

- slink: WebサーバおよびSMBサーバのサービスで使用可能なシンボリックリンクを作成します。

リンクを作成する場所の指定は、パスを直接手入力するか、[ツリー選択]をクリックしディレクトリツリーから選択してください。

- llink: AnonymousFTPサーバのサービスで使用可能なローカルリンクを作成します。AnonymousFTPサーバ(内向けおよび外向け)のドキュメントルートとリンクさせる場合必ず「llink」が必要です。



### [設定例-1]

「files」コンテンツディレクトリを「www」コンテンツディレクトリの下にリンク(slink)させる手順を以下に示します。

1. 「コンテンツディレクトリ設定」をクリックし、「files」に対応した[リンク]をクリックする。
2. 「リンク設定」画面で「リンク追加」および「slink」をチェックする。
3. 「/home/contents/a/」につづく空欄に「www」を手入力するか、[ツリー選択]をクリックし、右側の選択欄に表示される「www」をクリックする。
4. [実行]をクリックする。

## [設定例-2]

「local\_ftp」コンテンツディレクトリを内向けAnonymousFTPサーバのドキュメントルートにする為、ローカルリンク(link)を設定する手順を以下に示します。

1. 「コンテンツディレクトリ設定」をクリックし、「local\_ftp」に対応した[リンク]をクリックする。
2. 「リンク設定」画面で「リンク追加」および「link」をチェックする。
3. [実行]をクリックする。

## [設定例-3]

「www」コンテンツディレクトリ以下に作成した「files」コンテンツディレクトリのリンク(slink)を削除する手順を以下に示します。

1. 「コンテンツディレクトリ設定」をクリックし、「files」に対応した[リンク]をクリックする。
2. 「リンク設定」画面で「リンク削除」および削除対象のリンク(属性:「slink」、パス:「www/files」)をチェックする。
3. [実行]をクリックする。



「users」コンテンツディレクトリは、「link」を設定することはできません。



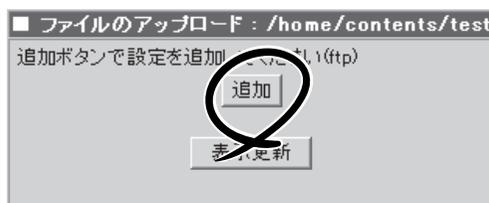
- 「slink」は、コンテンツディレクトリ以下にのみ作成可能です(コンテンツディレクトリ以下に作成された通常のディレクトリ以下も可)。また、作成されるシンボリックリンクファイルはコンテンツディレクトリと同じ名前になります。
- AnonymousFTPサーバのドキュメントルートとリンクされたコンテンツディレクトリ以下に「slink」を作成しても、FTP経由で参照することはできません。
- AnonymousFTP(内向け/外向け)属性のコンテンツディレクトリでも、「link」が設定されていないとドキュメントルートの選択候補として表示されませんので注意してください。

## ファイルのアップロード

コンテンツディレクトリに置かれているファイルを別のホストにアップロードすることができます。

### ● アップロード設定の追加

初期状態ではアップロード設定は存在しません。「ファイルのアップロード」画面で[追加]をクリックしてアップロード設定を追加してください。



「設定の追加」では以下の項目を設定してください。

#### ー 転送先ホスト

転送先のホスト名を記入してください。

#### ー ポート番号(省略可)

通常は省略してかまいません。通常のポート以外のポートを利用する特別な場合のみポート番号を記入してください。

#### ー 転送先ディレクトリ

転送先ホストでファイルを配置したい場所を指定してください。「ユーザ名」の項目で指定したアカウントで ftpログインした環境でのディレクトリ名を指定する必要がありますので、転送先ホストの設定に応じて適切に指定してください。

#### ー ユーザ名

転送先ホストに ftpログインするためのユーザ名を入力してください。

#### ー パスワード/パスワード確認

転送先ホストに ftpログインするためのパスワードを入力してください。

#### ー 転送しないファイル名

転送したくないファイル名をカンマ区切りで並べて指定してください(例: CVS、ignore、tmp)。

ディレクトリ名が指定した値に一致する場合はそのディレクトリ以下のファイルすべても転送対象外になります。



- FTP f/w Proxyサーバ/ポート

FTP Proxyを使う必要がある環境の場合のみ指定してください。無記入の場合はFTP Proxyを使用しません。

サポートするProxyのタイプは、Proxy接続時のログインIDとして「ユーザ名@ホスト名」をサポートするタイプのみです。詳細は利用するProxyサーバの管理者に確認してください。

- 自動転送する

この項目をチェックすると定期的に自動でアップロードする対象となります。

## ● 設定の確認と操作

設定が存在する場合は設定内容と状態が表示されます。

- 状態の確認

状態の項目は以下のとおりです。

- (N/A)

1度も実行されていない状態です。

- start

アップロード実行中です。

- done

前回のアップロードが正常に終了した状態です。

- error

設定ミスなどの原因によりアップロードに失敗しています。設定を確認し直してください。

- 設定の削除

[設定削除]をクリックすると、アップロードの設定を削除できます。

- 設定の修正

各項目を修正した後、[以下の内容を修正]をクリックすると、設定内容が修正されます。

- 即時実行

設定に従ってアップロードを即時に行います。

- 表示更新

状態表示を更新します。

■ ファイルのアップロード: /home/contents/test

ftp :

No. 1 :

状態: (N/A)

転送先ホスト:

ポート番号:  (省略可)

転送先ディレクトリ:

ユーザ名:

パスワード:

転送しないファイル名:

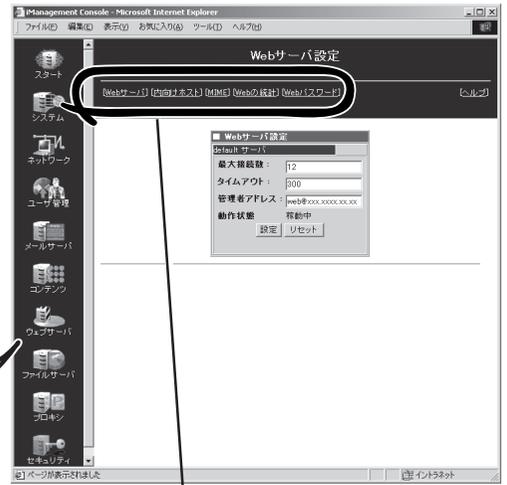
ftp f/w proxy サーバ:  (省略可)

ftp f/w proxy ポート:  (省略可)

自動転送する(1時間毎)

# ウェブサーバ

SURFNAVIの管理者は、iManagement ConsoleからWebサーバの最大接続数や接続タイムアウト時間などといった基本的な設定だけではなく、仮想サーバの設定、SSLの設定といったことも可能であり、一元的な管理とセキュアな情報発信を実現できます。



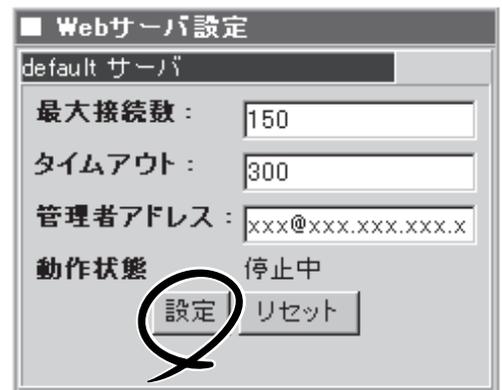
項目をクリックするとそれぞれの選択画面が表示される（「SSLの設定」はポート番号が「443」のWebホストにのみ、表示される）

## Webサーバの基本的な設定

SURFNAVIのウェブサーバ機能を利用する場合は、まず「システムサービスの選択」の項を参照してウェブサーバの機能を有効にしてください。

SURFNAVIは、ウェブサーバとして簡単にご利用いただけるようにほとんどの設定が完了した状態となっております。ユーザ先にてカスタマイズを行いたい場合は、必要に応じてデフォルト値を修正してご利用ください。以下に設定の概略を示します。

1. 「ウェブサーバ」画面の「基本設定」テーブルで、必要に応じて最大接続数、接続タイムアウト管理者メールアドレス情報を入力し、「設定」をクリックする。



2. 「内向けホスト」メニューおよび「外向けホスト」メニューで表示されるWebホスト設定テーブルで、「http://<ホスト名>」で始まるWebホストの「編集」をクリックする。



## 重要

- インターネットモデルでは、内向け(ローカル側)/外向け(インターネット側)ホストそれぞれの設定が可能です。ドキュメントルートはデフォルトで内向け/外向けともに/home/httpd/htmlに設定されています。
- イントラネットモデルでは、外向け(インターネット側)ホストは稼働しません(設定もできません)。
- DMZネットモデルではインターネットモデルと同様の設定が可能です。

3. Webホストの設定画面に遷移します。ディレクトリ設定テーブルで、ディレクトリ単位の詳細な設定(CGI/SSIの設定等)を行うことができます。新規にディレクトリ設定を作成したい場合は[追加]をクリックし、登録済みのディレクトリ設定を編集したい場合は該当するディレクトリの[編集]をクリックする。
4. Webの設定画面の仮想パス設定テーブルで、実ディレクトリと仮想パスの関連付けを行うことができます。新規に仮想パス設定を作成したい場合は[追加]をクリックし、登録済みの仮想パス設定を編集したい場合は該当する仮想パスの[編集]をクリックする。

ディレクトリ設定		実ディレクトリ名
操作		
追加		
編集	削除	/home/httpd/html
編集	削除	/home/users

仮想パス設定		
操作	仮想パス名	実ディレクトリ名
追加		

## 重要

ドキュメントルートの下に作成されたディレクトリ以外のディレクトリにアクセスする場合は、仮想パスの設定が必要です。

# Webマスタのパスワード設定

SURFNAVIにWebドキュメントをアップロードするためには、Webマスタのパスワードが必要になります。初期状態ではパスワードは設定されていないため、Webドキュメントをアップロードする前にあらかじめパスワードを設定しておく必要があります。

「Webパスワード」をクリックすると「Webマスターパスワードの変更」画面になります。6文字以上のパスワードを入力して「設定」をクリックしてください。

Webマスターパスワードの変更	
Webマスターのパスワードを変更します。 6文字以上の新しいパスワードを2度入力して、設定ボタンを押して下さい。	
新しいパスワード:	*****
再入力:	*****
<input type="button" value="設定"/>	

## 重要

必ず管理者(admin)パスワードとは異なるパスワードを設定してください。

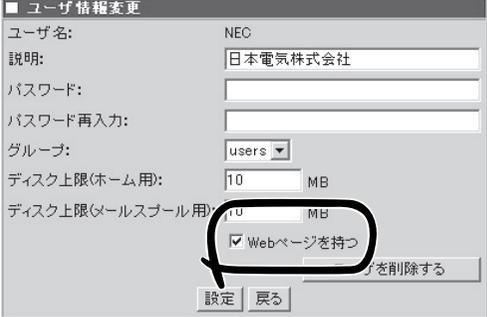


# 一般ユーザーのWebページ

SURFNAVIでは、一般ユーザーに対してWebページを持つことを許可することができます。以下に設定の手順例を示します。

1. 「ユーザ管理」画面でWebページを持つことを許可するユーザー名をクリックする（新規ユーザーの場合は[追加]をクリックする）。
2. 「ユーザ情報変更」(または新規ユーザ)画面で「Webページを持つ」にチェックし、「設定」をクリックする。

一般ユーザーのドキュメントルートとして、そのユーザーのホームディレクトリの下に「public\_html」というディレクトリが作成されます。



■ ユーザ情報変更

ユーザー名: NEC  
説明: 日本電気株式会社  
パスワード:  
パスワード再入力:  
グループ: users  
ディスク上限(ホーム用): 10 MB  
ディスク上限(メールスプール用): 10 MB  
 Webページを持つ  
Webページを削除する  
設定 戻る

3. クライアント側でWebドキュメントを用意(作成)し、一般ユーザーのアカウント/パスワードでFTPまたはSambaを利用してSURFNAVIに作成された各一般ユーザーのドキュメントルート(またはイル転送先ディレクトリ)に転送する。



#### ヒント

一般ユーザーのWebページは、「http://<SURFNAVIのアドレス>/<ユーザー名>」でアクセスします。

# セキュアなWebサーバの設定

SURFNAVIはSSL (Secure Socket Layer)をサポートしています。このSSL通信を用いることによって通信している情報を暗号化することができるため、セキュアな情報発信を実現できます。以下に設定の概略を示します。

1. 「内向けホスト」メニューおよび「外向けホスト」メニューで表示されるWebホスト設定テーブルで、「https://<ホスト名>」で始まるホストの[編集]をクリックする。

インターネットモデルでは、内向け(ローカル側)/外向け(インターネット側)それぞれのホストに対して設定が可能です。

編集	http://xxx.xxx.xxx.xxx/	停止中
編集	https://xxx.xxx.xxx.xxx/	停止中

2. ウェブサーバ - サーバ画面に遷移します。ウェブサーバ - サーバ画面のディレクトリ設定テーブルで、ディレクトリ単位の詳細な設定 (CGI/SSIの設定等)を行うことができます。新規にディレクトリ設定を作成したい場合は[追加]をクリックし、登録済みのディレクトリ設定を編集したい場合は該当するディレクトリの[編集]をクリックする。

操作	実ディレクトリ名
追加	
編集 削除	/home/httpd/html
編集 削除	/home/users

3. ウェブサーバ - サーバ画面の仮想パス設定テーブルで、実ディレクトリと仮想パスの関連付けを行うことができます。新規に仮想パス設定を作成したい場合は[追加]をクリックし、登録済みの仮想パス設定を編集したい場合は該当する仮想パスの[編集]をクリックする。

操作	仮想パス名	実ディレクトリ名
追加		

## 重要

ドキュメントルートの下に作成されたディレクトリ以外のディレクトリにアクセスする場合は、仮想パスの設定が必要です。

4. Webホストの設定画面のSSLの設定テーブル上の[SSL設定]をクリックするとSSL画面に遷移します。SSL画面の秘密鍵と証明書の作成テーブルで、「自己署名形式の場合」と「認証局署名形式の場合」のどちらか一方の秘密鍵/証明書(署名要求)を作成することができます

証明書の有効期限	2008/01/16 14:18:02 GMT
SSL設定...	

5. 「自己署名形式」または「認証局署名形式」のどちらか一方の該当項目をチェックし、[設定]をクリックする。

設定の詳細についてはこの後の説明を参照してください。

■ 秘密鍵と証明書の作成

xxx.xxx.xxx.xxx.xxx.xxx : 443

現在の状態

秘密鍵の状態:	作成済
証明書署名要求の状態:	未作成
証明書の状態:	作成済

自己署名形式の場合

- 秘密鍵と証明書を作る
- 証明書の情報を表示する
- 秘密鍵と証明書を削除する

認証局署名形式の場合

- 秘密鍵と証明書署名要求を作る
- 証明書署名要求を表示する
- 秘密鍵と証明書署名要求を削除する
- 署名済みの証明書を登録する
- 証明書の情報を表示する
- 証明書を削除する

設定 | 戻る

SSLの詳細な設定について説明します。

## ● 証明書

証明書には、大きく分けて2種類あります。1つは自己署名証明書、もう1つは公的に通用する証明書です。前者は、署名を自己でするため、手軽に(無料で)SSL通信を実行できますが、公的に認められた認証局が署名していないので、信頼がありません(暗号化はされます)。後者は、公的に認められた認証局によって署名されるため、信頼の高い暗号化通信を行うことができます(こちらを推奨します)。

## ● 証明書の作成

自己署名証明書は、iManagement Consoleを使用することにより、簡単に作成することができます。認証局によって署名された証明書を作成するには、iManagement Consoleを使用して証明書署名要求(CSR)を作成します。その後に、証明書署名要求をエディタ(整形機能の無いもの)にコピーまたは張り付け、認証局の指示に従い、証明書を発行してもらいます。

### ー 自己署名の場合

1. 「Webサーバー-SSL」画面の「秘密鍵と証明書の作成」で「自己署名形式の場合」の「秘密鍵と証明書署名要求を作る」をチェックし、[設定]をクリックする。
2. 国コード、都道府県名などを半角文字で入力し、[設定]をクリックする。

ー ベリサインなどの認証局に署名してもらう場合)

1. 「WebサーバーSSL」画面の「秘密鍵と証明書の作成」で「認証局署名形式の場合」の「秘密鍵と証明書を作る」をチェックし、[設定]をクリックする。
2. 国コード、都道府県名などを半角文字で入力し、[設定]をクリックする。
3. 表示された証明書署名要求をコピー&貼り付けなどで読み取って、ベリサインなどの認証局に署名を依頼する。  
依頼の詳細は、各認証局の説明に従ってください。
4. 認証局から署名済みの証明書が返送されてきたら、「WebサーバーSSL」画面の「秘密鍵と証明書の作成」で「認証局署名形式の場合」の「署名済みの証明書を登録する」をチェックし、[設定]をクリックする。
5. 入力欄に認証局から返送された証明書を入力し、[設定]をクリックする。

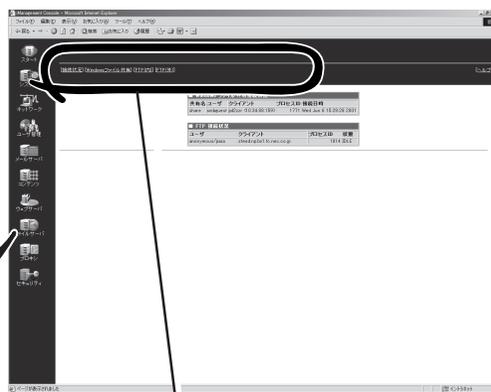
上記の設定が完了したら、クライアント側のブラウザから「https://<SURFNAVIのIPアドレスまたは名前>/」でアクセスしてください。



- 設定項目の詳細については、画面上の[ヘルプ]をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。
- iManagement ConsoleでSSL通信を行う際、クライアント側のブラウザとしてNetscapeを使用される場合は、バージョン4.7以上を使用してください。

# ファイルサーバ

SURFNAVIの管理者は、iManagement ConsoleからWindowsファイル共有(Samba)、ファイル転送(FTP)といったファイルサーバの設定を簡単に行うことができます。



項目をクリックするとそれぞれの選択画面が表示される

## 接続状況

Windowsファイル共有とFTPに関する接続状況を確認できます。

### Windowsファイル共有接続状況

Sambaによるファイル共有の状況(共有名、ユーザー、クライアント、プロセスID、接続日時など)を各共有名ごとに表示します。

■ Windows ファイル共有接続状況				
共有名	ユーザ	クライアント	プロセスID	接続日時
share	smbguest	xxxxxxxx (xxxxxxxx)	1771	Wed Jun 6 15:29:28 2001

### FTP接続状況

クライアントからのFTP接続の状況(ユーザー、クライアント、プロセスID、状態)を表示します。

■ FTP 接続状況				
ユーザ	クライアント	プロセスID	状態	
anonymous/pass	xxxx.xxxx.co.jp		1814	IDLE



- 匿名ユーザが接続している場合、FTP接続状況のユーザー欄に「anonymous/<入力したパスワード>」が表示されます(パスワードは省略表示される場合があります)。
- FTP接続状況の状態欄には、ユーザーが実行中のFTPコマンドが表示され、実行中のコマンドがない場合は「IDLE」が表示されます(接続ユーザー、入力パスワード等により正しく表示されない場合があります)。

# Windowsファイル共有(Samba)

SMBサーバ(Samba)は、そのマシン上のリソース(ユーザーのホームディレクトリ、コンテンツディレクトリなど)をWindowsクライアントマシンからアクセスできるようにします。

SURFNAVIにおいてSambaサービスはデフォルトで停止されています。

Sambaを使用してWindowsとのファイル共有をする場合は、まず[システム]-[サービス選択]画面でSambaサービスを「Sambaサービス起動」に設定し、次に[ファイルサーバ]-[Windowsファイル共有]画面でワークグループ、セキュリティ、名前解決等に関する設定をします。

■ Windowsファイル共有(Samba)

ワークグループ:  ワークグループ  Windowsドメイン  
WORKGROUP

コメント: Samba %v

セキュリティ:  共有時認証  ログイン時認証  Windowsドメイン認証  
PDC:   
BDC:   
 ユーザアカウント同期

名前解決:  自サーバで解決を行う  WINSサーバで解決を行う  
  
 上記以外の解決方法

設定



重要

- [ネットワーク]-[ネットワークモデルの選択]画面で、モデルを変更した場合、Sambaサービスは停止状態に戻ります。なお、DMZネットモデルでは、Sambaサービスは利用できません。
- 設定項目の詳細については、画面上の[ヘルプ]をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。

# ファイル転送(FTP[内向け])

SURFNAVIをローカル側ネットワーク向け(内向け)のFTPサーバとして利用する場合、iManagement Consoleの「ファイル転送(FTP[内向け])」画面で匿名利用の可否、使用可能ディスク容量、接続時間および同時ログイン数の制限の有無に関する設定をします。



内向けAnonymous FTP用のディレクトリは、/home/ftpになります(ファイルの置き場所は、/home/ftp/pub配下)。anonymousユーザーは、この/home/ftp以下のディレクトリにのみアクセスが可能となります。

■ ファイル転送(FTP)

匿名利用を許可する

アクセス権:  書き込みを許可する  
 ディレクトリ作成を許可する  
 上書きを許可する  
 名前変更を許可する  
 削除を許可する

パスワードの形式チェック:  
 しない  
 警告だけ出す  
 ログインさせない

使用可能ディスク容量(MB)を制限する  
100 MB

接続時間(分)を制限する  
10 分

同時ログイン数を制限する  
20 人

設定



- 内向けAnonymous FTP用のドキュメントルートが設定されていないと、/home/ftp/pub ディレクトリが表示されません。[コンテンツ]—[ドキュメントルート設定]—[[Anonymous FTP]ドキュメントルート変更]画面で適切にドキュメントルートを設定してください。
- [ネットワーク]—[ネットワークモデルの選択]画面にて、モデルを変更した場合、内向けAnonymous FTPサービスはアクセス拒否設定に戻ります。なお、DMZネットワークモデルでは、内向けAnonymous FTPサービスは利用できません。
- 設定項目の詳細については、画面上の[ヘルプ]をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。

# ファイル転送(FTP【外向け】)

SURFNAVIをプロバイダ側ネットワーク向け(外向け)のAnonymous FTPサーバとして利用する場合、まず[システム]→[サービス選択]画面で外向けFTPサービスを「使用する」に設定し、次に[ファイルサーバ]→[ファイル転送(FTP【外向け】)]画面にて匿名アクセスの可否、同時ログイン数、接続時間の制限の有無に関する設定をします。

■ ファイル転送(VirtualFTP)

インターネットからの匿名アクセス(読取りのみ)を許可する

同時ログイン数を制限する  
20 人

接続時間(分)を制限する  
10 分

設定



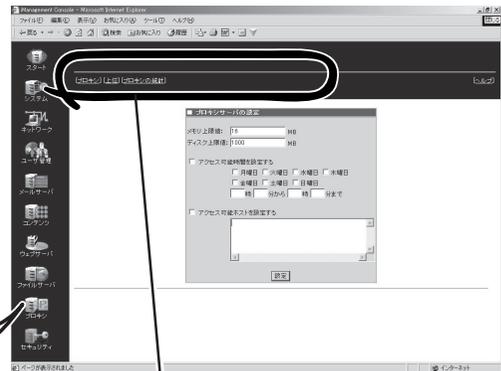
外向けAnonymous FTP用のディレクトリは、/home/vftp になります(ファイルの置き場所は、/home/vftp/pub 配下)。anonymousユーザーは、この /home/vftp 以下のディレクトリにのみアクセスが可能となります。



- 外向けAnonymous FTP用のドキュメントルートが設定されていないと、/home/vftp/pub ディレクトリが表示されません。[コンテンツ]→[ドキュメントルート設定]→[Anonymous FTP]ドキュメントルート変更]画面で適切にドキュメントルートを設定してください。
- [ネットワーク]→[ネットワークモデルの選択]画面にて、モデルを変更した場合、外向けAnonymous FTPサービスはアクセス拒否設定に戻ります。なお、イントラネットモデル、ダイナミックIPモデルでは、外向けAnonymous FTPサービスは利用できません。
- 設定項目の詳細については、画面上の[ヘルプ]をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。

# プロキシ

SURFNAVIの管理者は、iManagement Consoleからプロキシサーバが使用するメモリ/ディスクの上限値(MB単位)、プロキシサーバにアクセス可能な時間/ホストの制限等の設定が可能であり、クライアントに対するWebアクセスの制限等による効率的なインターネットアクセスを実現できます。



項目をクリックするとそれぞれの選択画面が表示される

## プロキシ

「システム」→「サービス」→「プロキシ」を「使用する」に設定した時のみ設定画面が現れます。

プロキシサーバを使用することにより、以下のことができます。

### プロキシ(代理)機能

通常インターネットに接続できるのはグローバルIPアドレスを持ったマシンからのみです。ローカルアドレスを持っているマシンがグローバルIPアドレスを持ったプロキシサーバを経由することにより、インターネットにアクセスできるようになります。

### キャッシュ機能

ローカルエリア内のマシンから頻繁にアクセスするインターネットサイトの情報をプロキシサーバのメモリおよびハードディスクにキャッシュします。この機能により、外部とのネットワークのトラフィックを軽減し、ローカルホストのWebブラウザ表示時間を短縮できます。

### アクセス監視機能

すべてのローカルホストがプロキシサーバを経由するため、どのマシンからどのサイトへアクセスしたかがログに残ります。「システム」→「ログ」→「プロキシ」から見るができます。



設定項目の詳細については、画面上的「ヘルプ」をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。

## HTTP透過プロキシ

SURFNAVIでのプロキシ機能は、以下の要求を満たす透過プロキシです。

- すべてのローカルホストにプロキシを強制的に使わせる。
- プロキシを利用しているということを知らせたくない。
- ローカルホストのwebブラウザの設定を変更する手間をかけたくない。

ただし、この透過プロキシは「http://」で始まるサイトにしか有効ではありません。「ftp://」や「https://」で始まるサイトにアクセスする場合には以下の設定が必要です。

<Internet Explorer 4.xの場合>

「表示」→「インターネットオプション」→「接続」→「LANの設定」→「プロキシサーバー」で、「プロキシサーバーを使用する」にチェックし、「アドレス」にプロキシサーバのマシン名かIPアドレス、「ポート」にポート番号(8080)を指定する。

<Internet Explorer 5xの場合>

「ツール」→「インターネットオプション」→「接続」→「LANの設定」→「プロキシサーバー」で、「プロキシサーバーを使用する」にチェックし、「アドレス」にプロキシサーバのマシン名かIPアドレス、「ポート」にポート番号(8080)を指定する。

<Netscape Communicator 4xの場合>

「編集」→「設定」→「詳細」→「プロキシ」で「手動でプロキシを設定する」を選択し、「表示」で、HTTP、Security、FTPなどの欄の「使用するプロキシサーバーのアドレス」に、プロキシサーバのマシン名かIPアドレス、ポート番号(8080)を指定する。



- ここでいうプロキシサーバのマシン名/IPアドレスとはローカルホストから見たプロキシサーバのことです。
- 設定項目の詳細については、画面上の「ヘルプ」をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。



ローカルアドレスのマシンからローカルアドレスのマシンにアクセスするときには、プロキシサーバを使用しないようにブラウザを以下のように設定することを推奨いたします。

上記の場所で、Internet Explorerの場合は「ローカルアドレスにはプロキシサーバーを使用しない」にチェックし、Netscape Communicatorの場合は「プロキシなし」にローカルドメインを入力してください。

## 上位プロキシ

「システム」→「サービス」→「プロキシ」を「使用する」に設定した時のみ設定画面が現れます。

SURFNAVI自体がローカルドメイン内にあり、インターネットを接続するにはさらに上位のプロキシを経由しなければならない場合に設定します。



ローカルアドレスのマシンからローカルアドレスのマシンにアクセスするときには、プロキシサーバを使用しないように上位プロキシサーバを使用しないドメインにローカルドメインを設定することを推奨いたします。



設定項目の詳細については、画面上の「ヘルプ」をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。

## リバースプロキシ

「システム」→「サービス選択」→「Webサービス」を「リバースプロキシサーバ起動」に設定した時のみ設定画面が現れます。

ローカルエリア内にWebサーバがあり、外部からのWebアクセスをフォワードする場合に設定してください。プロキシサーバにWebコンテンツをキャッシュすることにより、内部ネットワークのトラフィックを軽減できます。



設定項目の詳細については、画面上の「ヘルプ」をクリックし、オンラインヘルプを参照してください。

## 別プロキシ

「システム」→「サービス」→「プロキシ」を「使用しない」に設定した時のみ設定画面が現れます。別のプロキシサーバを使用する時に設定します。



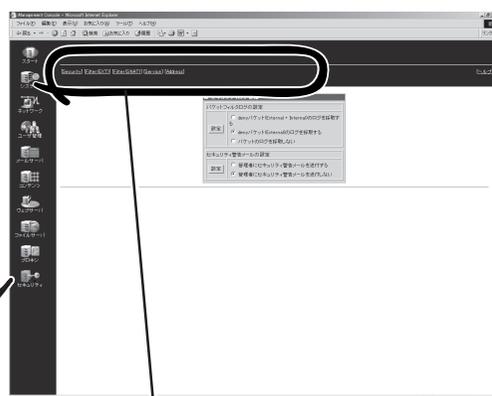
この設定をしないと、「ネットワーク」→「DNS」の「DNS HINTファイルの更新」ができません。

## プロキシの統計

SURFNAVIのプロキシサーバへのアクセスログの統計情報を表示します。「Summary by Month」の表の「Month」の項目のリンクをクリックするとその月の詳細な統計情報を表示します。

# セキュリティ

セキュリティについて専門的な知識がない場合でも、適切なセキュリティ水準を保つように、SURFNAVIではセキュリティの設定の多くが自動化されています。



ここではセキュリティについて簡単に述べます。パケットフィルタの定義を追加・変更したい場合やログファイルの見方については、

<http://www.ace.comp.nec.co.jp/linux/snl/>

の情報を参照してください。

項目をクリックするとそれぞれの選択画面が表示される

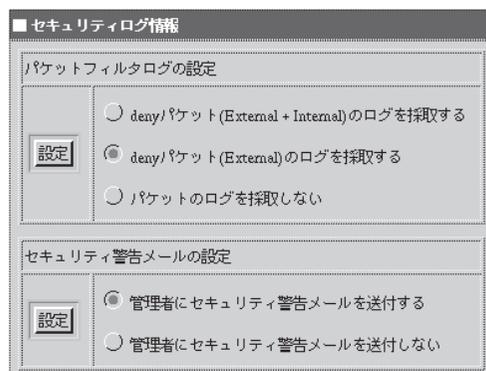
## ファイアウォール機能の使用

インターネットモデルでは、ファイアウォール機能を使用することができます。ファイアウォール機能を使用する場合は、「システム」→「サービス選択」において、ファイアウォール機能を「使用する」に設定してください。

**重要** 別にファイアウォール装置がない場合、ファイアウォール機能は必ず「使用する」としてください。

## セキュリティ情報

「セキュリティ」→「Security」では、セキュリティログ情報(パケットフィルタログの設定、セキュリティ警告メールの設定)を指定します。



# パケットフィルタの定義

「セキュリティ」→「Filter(EXT)」では、外部からSURFNAVIに対するアクセス(from EXTERNAL)についてのパケットフィルタの定義を、「セキュリティ」→「Filter (SNAT)」では、内部から外部へのアクセス(from INTERNAL to EXTERNAL)についてのパケットフィルタの定義を、それぞれ確認、変更します。

■ パケットフィルタの定義(SNAT)

サービス(Service)	ftp
始点アドレス(Src)	master
終点アドレス(Dst)	site
結果(Result)	<input checked="" type="radio"/> 許可する <input type="radio"/> 許可しない

設定 キャンセル

■ パケットフィルタ (from EXTERNAL)

	Service	Src	Dst	Result
	http	*	*	deny
	https	*	*	deny
	ftp	*	*	deny
	telnet	*	*	deny
	ssh	*	*	deny
	smtp	*	*	deny
	pop	*	*	deny
	imap	*	*	deny
	dns	*	*	deny
	dns-reply	*	*	accept
	wbmqtt	*	*	deny
	wbmqttps	*	*	deny
	ping	*	*	deny
	ping-reply	*	*	deny
	notify	*	*	accept
追加				

■ Source NAT (from INTERNAL to EXTERNAL)

全てのアクセスを許可する  
 特定のアクセスを許可する

	Service	Src	Dst	Result
	http	*	*	redirect 8080
	https	*	*	deny
	ftp	*	*	accept
	telnet	*	*	deny
	ssh	*	*	deny
	smtp	*	*	deny
	pop	*	*	deny
	imap	*	*	deny
	dns	*	*	deny
	wbmqtt	*	*	deny
	wbmqttps	*	*	deny
	ping	*	*	deny
追加				

# サービスの定義

「セキュリティ」→「Service」では、パケットフィルタに用いるサービス(プロトコルとポート番号の組)の定義を行います。

# アドレスの定義

「セキュリティ」→「Address」では、パケットフィルタに用いるアドレス(ネットワークまたはホスト)の定義を行います。



■ アドレスの定義	
名前 (Name)	addr2
アドレス (Address)	10.20.30.0/24 10.30.50.0/24
設定 キャンセル	

# バックアップ

SURFNAVIの管理者は、マシンの故障や設定の誤りなど思わぬトラブルからスムーズに復旧するために、定期的にマシン内のファイルのバックアップをとっておくことを強く推奨します。

## バックアップ管理

バックアップしておいたファイルを「リストア」することによってバックアップを作成した時点の状態へSURFNAVIを復元することができるようになります。

SURFNAVIでは、システム内のファイルを以下の7つのグループに分類して、その各グループごとにファイルのバックアップのとり方を制御することができます。

- アカウント情報
- サーバコンテンツ
- システムの設定ファイル
- ユーザホーム
- ログファイル
- メールスプール
- 統計情報

初期状態では、いずれのグループも「なし」の設定になっています。運用する環境に合わせて各グループのファイルのバックアップを設定してください。

SURFNAVIでは各グループに対して「copy」(ローカルディスク)、「smb」(Samba)、「ftp」の3種類のバックアップ方法を指定することができます。

各方法には、それぞれ以下のような特徴があります。

- **copy(ローカルディスク)**

SURFNAVI内のディスクの別の場所にバックアップをとります。

「長所」 ユーザーの設定がほとんど不要で簡単です。

「短所」 SURFNAVI内部でのバックアップのため、ハードディスクがクラッシュすると復元できません。

- **smb(Samba)**

LANに接続されているWindowsマシンのディスクにバックアップをとります。

「長所」 SURFNAVIがクラッシュしても復元できます。

「短所」 あらかじめWindowsマシンに共有の設定をしておく必要があります。

- FTP

あらかじめ別に用意しておいたFTPサーバにバックアップをとります。

「長所」 SURFNAVIがクラッシュしても復元できます。

「短所」 利用可能なFTPサーバが必要です。



- システム、各種サーバの設定ファイルは必ずバックアップを設定してください。
- ローカルディスクへのバックアップは、他の方法に比べてリストアできない可能性が高くなります。なるべくSambaかFTPの方法を使用して、別マシンへバックアップをとるようにしてください。

# バックアップの設定の手順(例)

ここでは「Samba」と「FTP」を使用したバックアップの方法について説明します。

## 「Samba」によるバックアップ設定の例

ここではマシン名「winpc」というWindowsマシンの「C:ドライブ」にバックアップのためのフォルダ「backup」を作成して「システム、各種サーバの設定ファイル」グループのファイルのバックアップを行う場合の操作手順の例を説明します。

バックアップファイルを置くマシン(winpc)でのバックアップ作業のためのユーザーを「winpc」上にあらかじめ用意してください。



バックアップファイルの中にはSURFNAVI利用者のメールなどのプライベートな情報やSURFNAVIのセキュリティに関する情報などが含まれるため、バックアップのためのフォルダ(backup)の読み取り、変更の権限などのセキュリティの設定には十分注意してください。(Windows 98/95ではセキュリティの設定ができません。そのためお客様の情報が利用者に盗まれる可能性があります)

バックアップ作業のためのユーザーは既存のユーザーでもかまいませんが、以下の説明では「winuser」というユーザーをあらかじめ用意したという前提で説明します。

次の順序で設定します。以降、順に設定例を説明していきます。

1. Windowsマシンの共有フォルダの作成
2. SURFNAVIのバックアップファイルグループの設定
3. バックアップの実行



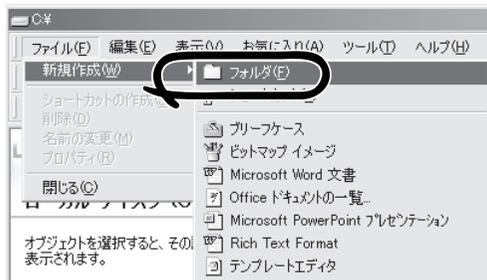
バックアップ用に作成した共有フォルダの設定を不用意に変更するとSURFNAVIのバックアップおよび復元の機能が正常に動作しなくなるので注意してください。

## Windowsマシンの共有フォルダの作成

まず、バックアップファイルを置いておくための共有フォルダをWindowsマシンに作成します。

(操作例 : winpcのOSがWindows 2000の場合)

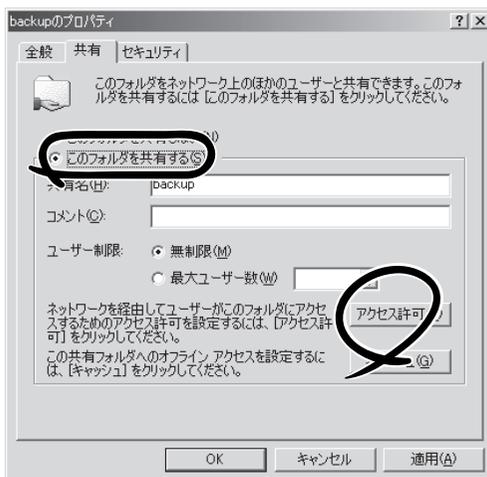
1. マシン「winpc」のデスクトップ上にある「マイコンピュータ」アイコンをダブルクリックする。
2. 開いた「マイコンピュータ」ウィンドウの「C:ドライブ」アイコンをダブルクリックする。
3. 「ファイル」メニューの「新規作成」→「フォルダ」をクリックする。



4. 「新しいフォルダ」の名前に「backup」とキーボードから入力し、<Enter>キーを押す。
5. 上記の手順で作成した「backup」フォルダをクリックして選択する。
6. 「ファイル」メニューの「共有」をクリックする。  
「backupのプロパティ」ウィンドウの「共有」シートが表示されます。



7. 「このフォルダを共有する」をクリックする。
8. 「アクセス許可」をクリックする。



9. 「共有アクセス許可」を設定する。

ここでは以下のように設定します。

1. 「名前」一覧から「Everyone」を削除する。
2. [追加]をクリックして「ユーザー、コンピューター、またはグループの選択」ウィンドウでユーザー「winuser」を追加し、[OK]をクリックする。
3. 「共有アクセス許可」の「アクセス許可」一覧の「フルコントロール」の許可のチェックボックスにチェックをつける。



10. [OK]をクリックし、「backupのアクセス許可」のウィンドウを閉じる。

11. [OK]をクリックし、「backupのプロパティ」のウィンドウを閉じる。

12. 「backup」フォルダのアイコンが変わったことを確認する。

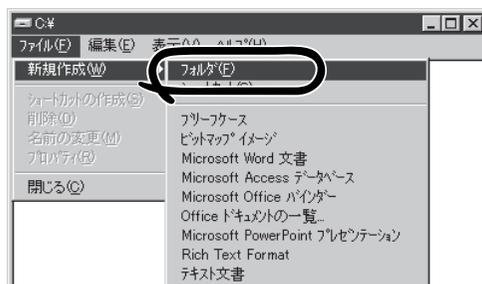


以上でWindows上の共有フォルダの設定は完了です。

## (操作例 : winpcのOSがWindows NTの場合)

1. マシン「winpc」のデスクトップ上にある[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックする。
2. 開いた「マイコンピュータ」ウィンドウの[C:ドライブ]アイコンをダブルクリックする。

3. 「ファイル」メニューの「新規作成」→「フォルダ」をクリックする。



4. 「新しいフォルダ」の名前に「backup」とキーボードから入力し、<Enter>キーを押す。

5. 上記の手順で作成した「backup」フォルダをクリックして選択する。

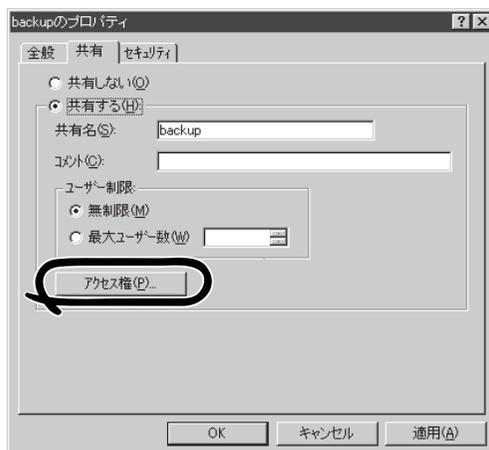


6. 「ファイル」メニューの「共有」をクリックする。

「backupのプロパティ」ウィンドウの「共有」シートが表示されます。

7. 「共有する」をクリックする。

8. 「アクセス権」をクリックする。



9. 「共有資源のアクセス権」を設定する。

ここでは以下のように設定します。

1. 「名前」一覧から「Everyone」を削除する。
2. [追加]をクリックして「ユーザーとグループの追加」ウィンドウで「ユーザーの表示」をクリックし、ユーザー「winuser」を選択して[追加]をクリックする。
3. 「アクセス権の種類」のプルダウンメニューから「フルコントロール」を選択し、[OK]をクリックする。



10. [OK]をクリックし、「共有資源のアクセス権」のウィンドウを閉じる。

11. [OK]をクリックし、「backupのプロパティ」のウィンドウを閉じる。

以上でWindows NT上の共有フォルダの設定は完了です。

## (操作例：winpcのOSがWindows 98の場合)

1. マシン「winpc」のデスクトップ上にある[マイコンピュータ]アイコンをダブルクリックする。
2. 開いた「マイコンピュータ」ウィンドウの[C:ドライブ]アイコンをダブルクリックする。
3. 「ファイル」メニューの「新規作成」→「フォルダ」をクリックする。
4. 「新しいフォルダ」の名前に「backup」とキーボードから入力し、<Enter>キーを押す。



5. 上記の手順で作成した「backup」フォルダをクリックして選択する。
6. 「ファイル」メニューの「共有」をクリックする。  
「backupのプロパティ」ウィンドウの「共有」シートが表示されます。

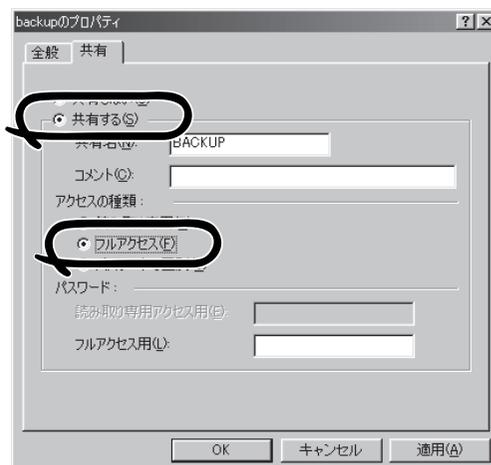


7. 「共有する」をクリックする。
8. 「アクセスの種類」で「フルアクセス」をクリックする。

### 重要

「パスワード」の「フルアクセス用」欄には何も設定しないでください。

9. [OK]をクリックし、「backupのプロパティ」のウィンドウを閉じる。



以上でWindows 98上の共有フォルダの設定は完了です。

## SURFNAVIのバックアップファイルグループの設定

ここでは例として「システムの設定ファイル」グループのバックアップの設定手順を説明します（他のグループも操作方法は同じです）。

1. iManagement Console画面左の[システム]アイコンをクリックする。  
「システムの状態」画面が表示されます。
2. 「システムの状態」画面の「Backup」をクリックする。  
バックアップの設定画面が表示されます。



3. 下の「バックアップ方法の設定」の[smb]をクリックする。  
「バックアップの方法の定義」画面が表示されます。

### 重要

Samba、Ftpでバックアップをする場合はまず「バックアップの方法の設定」でSamba、Ftpの設定を行ってください。

	種別	説明	方法	時間	保存
即時	復元	account	アカウント情報	copy	なし 30
即時	復元	contents	サーバコンテンツ	copy	なし 30
即時	復元	etc	システムの設定ファイル	copy	なし 30
即時	復元	home	ユーザホーム	copy	なし 30
即時	復元	log	ログファイル	copy	なし 30
即時	復元	mail	メールスプール	copy	なし 30
即時	復元	statistics	統計情報	copy	なし 30

名称	転送	場所	時間
copy	copy	(Disk)	
ftp	ftp	(Undef)	
smb	cifs	(Undef)	

4. 「バックアップの方法の設定」画面に移った後、「Windowsマシンの共有フォルダの作成」で行った設定に従って以下の項目を入力し、「設定」をクリックする。
  - 「Windowsマシン名」: winpc
  - 「共有名」: backup
  - 「ユーザ名」: winuser
  - 「パスワード」: ユーザーwinuserのパスワード
  - 「時間」: 自動バックアップをする時間

名称	smb
転送	cifs
サーバ名	<input type="text"/>
共有名	<input type="text"/>
ユーザ名	<input type="text"/>
パスワード	<input type="password"/>
時間	<input type="text"/> 時 <input type="text"/> 分
<input type="button" value="設定"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

### ヒント

バックアップの設定画面で、(バックアップを)即実行する場合は「時間」を設定しなくても構いませんが、周期で自動バックアップをする場合はここで「時間」を設定しておかなくてはなりません。

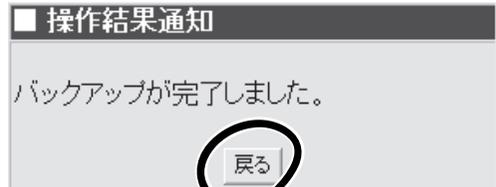
5. 正しく設定されていることを確認するため、「バックアップの設定」の「システムの設定ファイル」の左の[即時]をクリックする。

	種別	説明	方法	時間	保存	
即時	復元	account	アカウント情報	copy	なし	30
即時	復元	contents	サブコンテンツ	copy	なし	30
即時	復元	etc	システムの設定ファイル	copy	なし	30
即時	復元	home	ユーザホーム	copy	なし	30
即時	復元	log	ログファイル	copy	なし	30
即時	復元	mail	メールスプール	copy	なし	30
即時	復元	statistics	統計情報	copy	なし	30

正しく実行された場合は以下の操作結果通知が表示されます。



正しく操作結果通知が表示されない場合はWindowsマシンの共有の設定とSURFNAVIのバックアップ方式の設定が正しいかどうか確認してください。



この「即時」を使うことで、任意のタイミングで手動でバックアップを行うことができます。

6. [戻る]をクリックする。

定期的に自動的にバックアップを行うには以下の設定を続けて行ってください。

7. 「バックアップの設定」画面で、「方法」、「時間」、「保存」を設定する。

方法

バックアップの方法です。「copy」は常時選択可能ですが、「Samba」、「Ftp」は事前に「バックアップ方法の設定」を設定済みでなくては選択できません。

時間

自動バックアップのスケジュールの設定です。自動でバックアップする周期を設定します。また、何時にバックアップをするかは、「バックアップの方法の設定」で指定した時間になります。自動バックアップが必要ない場合は「なし」をクリックしてください。

保存

バックアップファイルの保存日数です。保存日数を越えたバックアップファイルは消去されます。ファイルを保管するディスクの容量と、必要に応じて指定してください。

種別	etc
説明	システムの設定ファイル
方法	copy
時間	<input type="radio"/> 毎日 <input type="radio"/> 毎週 <input type="text" value="日曜日"/> <input type="radio"/> 毎月 <input type="text" value=""/> <input checked="" type="radio"/> なし
保存	30 日
<input type="button" value="設定"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

8. 「バックアップの定義」画面下の[設定]をクリックする。

種別	etc
説明	システムの設定ファイル
方法	copy
時間	<input type="radio"/> 毎日 <input type="radio"/> 毎週 日曜日 <input type="radio"/> 毎月 <input type="text"/> 日 <input checked="" type="radio"/> なし
保存	30 <input type="checkbox"/>
設定 キャンセル	

以上で、定期的に自動的にバックアップを行う設定は完了です。



Sambaを用いたバックアップは、Windowsマシン名を解決できる環境が必要です。

# FTPを用いたバックアップ

FTPサーバ「ftpsv.backup.com」上にユーザー「ftpuser」を用意してバックアップを行う場合の手順は次のようになります。

1. iManagement Console画面左の[システム]アイコンをクリックする。

「システムの状態」画面が表示されます。

2. 「システムの状態」画面の「Backup」をクリックする。

バックアップの設定画面が表示されます。

3. 画面下、「バックアップ方法の設定」より、「ftp」をクリックする。

バックアップ方法の定義画面が表示されます。

4. 以下の項目を入力する。

- 「サーバ名」: ftpsv.backup.com
- 「ログイン名」: ftpuser
- 「パスワード」: ユーザー(ftpuser)のパスワード
- 「時間」: 自動バックアップをする時間

## ヒント

バックアップの設定画面で、(バックアップを)即実行する場合は「時間」を設定しなくても構いませんが、周期で自動バックアップをする場合はここで「時間」を設定しておかなくてはなりません。

「Backup」をクリック



	種別	説明	方法	時間	保存	
即時	復元	account	アカウント情報	copy	なし	30
即時	復元	contents	サーバコンテンツ	copy	なし	30
即時	復元	etc	システムの設定ファイル	copy	なし	30
即時	復元	home	ユーザホーム	copy	なし	30
即時	復元	log	ログファイル	copy	なし	30
即時	復元	mail	メールスプール	copy	なし	30
即時	復元	statistics	統計情報	copy	なし	30

	転送	場所	時間
copy	copy	(Disk)	
ftp	ftp	(Undef)	
smb	cifs	(Undef)	

名称	ftp
転送	ftp
サーバ名	ftpsv.backup.com
ユーザ名	ftpuser
パスワード	*****
時間	12 時 00 分
<input type="button" value="設定"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

5. 正しく設定されていることを確認するため、「バックアップの設定」の「システムの設定ファイル」の左の[即時]をクリックする。

	種別	説明	方法	時間	保存
即時	復元	account	アカウント情報	copy	なし 30
即時	復元	contents	サーバコンテンツ	copy	なし 30
即時	復元	etc	システムの設定ファイル	copy	なし 30
即時	復元	home	ユーザホーム	copy	なし 30
即時	復元	log	ログファイル	copy	なし 30
即時	復元	mail	メールスプール	copy	なし 30
即時	復元	statistics	統計情報	copy	なし 30

正しく実行された場合は以下の操作結果通知が表示されます。



チェック

正しく操作結果通知が表示されない場合はWindowsマシンの共有の設定とSURFNAVIのバックアップ方式の設定が正しいかどうか確認してください。

### 操作結果通知

バックアップが完了しました。

戻る



ヒント

この「即時」を使うことで、任意のタイミングで手動でバックアップを行うことができます。

6. [戻る]をクリックする。

定期的に自動的にバックアップを行うには以下の設定を続けて行ってください。

7. 「バックアップの設定」画面で、「方法」、「時間」、「保存」を設定する。

方法

バックアップの方法です。「copy」は常時選択可能ですが、「Samba」、「Ftp」は事前に「バックアップ方法の設定」を設定済みでなくては選択できません。

時間

自動バックアップのスケジュールの設定です。自動でバックアップする周期を設定します。また、何時にバックアップをするかは、「バックアップの方法の設定」で指定した時間になります。自動バックアップが必要ない場合は「なし」をクリックしてください。

保存

バックアップファイルの保存日数です。保存日数を越えたバックアップファイルは消去されます。ファイルを保管するディスクの容量と、必要に応じて指定してください。

種別	etc
説明	システムの設定ファイル
方法	copy
時間	<input type="radio"/> 毎日 <input type="radio"/> 毎週 日曜日 <input type="radio"/> 毎月 <input type="text"/> 日 <input checked="" type="radio"/> なし
保存	30 日
<input type="button" value="設定"/> <input type="button" value="キャンセル"/>	

8. 「バックアップの定義」画面下の[設定]をクリックする。

■ バックアップの定義	
種別	etc
説明	システムの設定ファイル
方法	copy
時間	<input type="radio"/> 毎日 <input type="radio"/> 毎週 日曜日 <input type="radio"/> 毎月 日 <input checked="" type="radio"/> なし
保存	30
[設定] [キャンセル]	

以上で、定期的に自動的にバックアップを行う設定は完了です。

---

## バックアップの実行

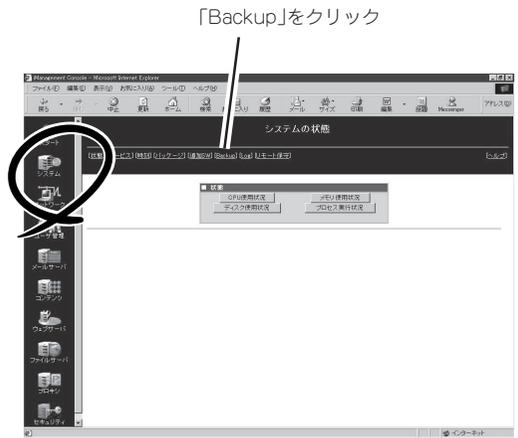
バックアップの処理は、「バックアップの設定」画面で指定した日の、「バックアップ方法の設定」で指定した時間に自動的に実行されます。指定した日時にSURFNAVIとバックアップファイルを置いておくマシンの両方の電源が入っている必要があるので注意してください。

# リストア

SURFNAVIでは、7つの各バックアップファイルグループごとにバックアップファイルをシステムにリストアすることができます。

ここでは例として「バックアップ手順の例」で設定を行った「システム設定ファイル」グループのファイルのバックアップファイルをシステムにリストアする際の操作手順の例を説明します。

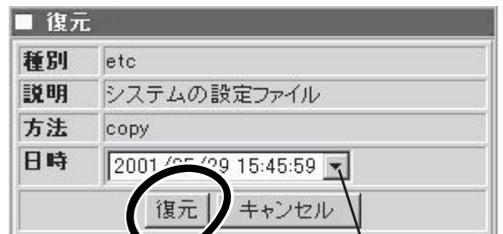
1. iManagement Console画面左の[システム]アイコンをクリックする。  
「システムの状態」画面が表示されます。
2. 「システムの状態」画面の「Backup」をクリックする。  
バックアップの設定画面が表示されます。



3. グループ、「システムの設定ファイル」の右側の[復元]をクリックする。  
ドロップボックス右側の小さい矢印をクリックすると、復元するバックアップファイルの一覧が表示されます。

	種別	説明	方法	時間	保存	
即時	復元	account	アカウント情報	copy	なし	30
即時	復元	contents	サーバコンテンツ	copy	なし	30
即時	復元	etc	システムの設定ファイル	copy	なし	30
即時	復元	home	ユーザホーム	copy	なし	30
即時	復元	log	ログファイル	copy	なし	30
即時	復元	mail	メールスプール	copy	なし	30
即時	復元	statistics	統計情報	copy	なし	30

4. ドロップボックスより、復元したいバックアップファイルを選択して、[復元]をクリックする。  
通常は、もっとも新しいバックアップファイルがドロップボックス最上位にあります。そのまま[復元]をクリックすれば最新のバックアップファイルが復元されます。



5. 「etcをリストアしました。」という正常終了結果を確認し、[戻る]をクリックする。

以上でバックアップファイルの復元の例は終了です。

# リモート保守

インターネット接続の場合に限り、リモート保守を行うことができます。

リモート保守とは、保守担当者がお客様の元へ出向かずに、インターネットを経由してお客様のマシンにログインして、調査、設定などを行うことです(ただし、ネットワークに障害が発生した場合、リモート保守は行うことができません)。

リモート保守においては、インターネットを経由した保守を安全に行うために、通信を暗号化する必要があります。通信を暗号化するためには、SURFNAVIIに鍵ファイルをインストールしておかなければなりません。

鍵を導入する場合は、鍵の入ったフロッピーディスクをフロッピーディスクドライブに挿入し、[設定]をクリックしてください。

鍵を導入した直後は、リモート保守は有効になっていません。

リモート保守を有効にする場合は、「リモート保守有効」をクリックして[設定]をクリックしてください。また、新しい鍵を導入したい場合、新しい鍵の入ったフロッピーディスクを挿入し、[設定]をクリックしてください。

この場合も新しい鍵を導入した直後はリモート保守は有効になっていません。

鍵を削除した場合は、もう一度鍵の入ったフロッピーディスクドライブに挿入し、鍵を導入するまではリモート保守が行えません。



リモート保守では、保守員にはかなりの権限が与えられています。セキュリティの向上を考  
える場合、リモート保守を受けていない時間には、リモート保守を無効にしておいてくださ  
い。なお、リモート保守の契約、鍵ファイルのインストールについては、販売店、もしくは  
は保守サービス会社にお問い合わせください。